

平成23年度

オーガニックタウン
だより

平成23年10月

農林水産省

有機農業推進事業実施地区マップ

農林水産省では、産地収益力向上支援事業(有機農業地区推進事業)において、地域における有機農業推進の取組を支援しています。平成23年度は、全国で47地区を支援しています。



南島原市有機農業推進協議会
(長崎県南島原市)

7つの生産団体、1生協、県、市との連携・協力のもと、有機農業者(52名)を対象としたJAS制度学習会といった知識向上、新規就農者の育成、消費者との意見交換会、交流会、生き物調査等を開催しています。



今治市有機農業推進協議会
(愛媛県今治市)

「食料の安全性と安定供給体制を確立する都市宣言」や「今治市食と農のまちづくり条例」を制定。また、昭和58年から有機農産物を学校給食で使い始めました。毎月2回有機農業の市民講座も開催されています。



山武市有機農業推進協議会
(千葉県山武市)

生産者団体「さんぶ野菜ネットワーク」を中核に、契約栽培により地域全体で有機農業を実践するとともに新規就農者への支援にも力を入れています。平成20年環境保全型農業コンクールで農林水産大臣賞を受賞。



津別町有機農業推進協議会
(北海道津別町)

津別町有機酪農研究会を中心に、約30haで飼料用作物を有機栽培、日本で初めて有機畜産物でJAS認証を取得。25戸中5戸の酪農家が有機認定農家です。週1回「オーガニック牛乳」を小学校に提供しています。



かごしま有機農業推進協議会
(鹿児島県鹿児島市他)

普及活動の一環として、有機農産物や加工品などを集めた「オーガニックフェスタ」を開催。昨年度は3万人の来場者を見込みました。また、有機農業の生産者を育成するために年8回の公開講座などを開いてきました。



(平成22年度事業実施地区一覧)

- 1 津別町有機農業推進協議会
- 2 一関地方有機農業推進協議会
- 3 JAみどりの有機農業推進協議会
- 4 加美よつば有機農業推進協議会
- 5 栗原市有機の会
- 6 大潟村有機農業推進協議会
- 7 鶴岡市有機農業推進協議会
- 8 遊佐町産地収益力向上協議会
- 9 最上地域有機農業推進協議会
- 10 喜多方市環境にやさしい農業推進協議会
- 11 やさと有機農業推進協議会
- 12 高崎市倉淵町有機農業推進協議会
- 13 小川町有機農業推進協議会
- 14 北総地区有機農業拡大協議会
- 15 山武市有機農業推進協議会
- 16 小田原有機の里づくり協議会
- 17 やまなし有機農業連絡協議会
- 18 阿賀野市有機農業推進協議会
- 19 金沢市有機農業推進協議会
- 20 コウノリ呼び戻す農法推進協議会
- 21 白川町有機の里づくり協議会
- 22 伊賀有機農業推進協議会
- 23 高島有機農業推進協議会
- 24 美山有機農業推進協議会
- 25 神戸西有機農業推進協議会
- 26 コウノリ共生農業推進協議会
- 27 丹波市有機の里づくり推進協議会
- 28 小野有機農業推進協議会
- 29 宇陀市有機農業推進協議会
- 30 那賀地方有機農業推進協議会
- 31 田辺市有機農業推進協議会
- 32 総社市有機農業推進協議会
- 33 徳島有機農業推進協議会
- 34 木頭子有機農業推進協議会
- 35 今治市有機農業推進協議会
- 36 西予市有機農業推進協議会
- 37 高知439国道有機協議会
- 38 高知ものべ川有機農業推進協議会
- 39 四万十町有機農業推進協議会
- 40 赤村有機農業推進協議会
- 41 南島原市有機農業推進協議会
- 42 「給食畑の野菜」有機農業推進協議会
- 43 人吉市有機農業推進協議会
- 44 宇城市有機農業推進協議会
- 45 山都町中山間地有機農業推進協議会
- 46 綾町有機農業推進協議会
- 47 かごしま有機農業推進協議会

津別町有機農業推進協議会(北海道)

北海道からでっかい贈り物 ～有機のつべつの勇気～

①取組の体制

①農業者(有機酪農研究会・JA特別栽培部会・農業士会津別支部・農業青年グループ「つべつべGROWほか」)

- ②津別町
- ③津別町農業委員会
- ④網走農業改良普及センター美幌支所
- ⑤JAつべつ

②取組の主な内容(22年度)

- 10年4～7月 協議会総会及び事業検討
- 10年6～7月 有機農業に関する各種調査
- 10年8月 現地検討会の開催
- 10年9月～11月 有機生産物の試食等消費者との交流活動
- 11年1月 有機農業フォーラムの開催
- 11年3月 漁協との有機農業に関する検討会の開催、次年度に向けた検討会の開催

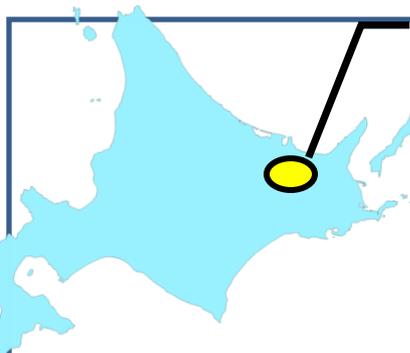
③生産概要(H22年12月末現在)

- 農業生産物の内訳
農地面積5,193ha(うち有機栽培303ha)
上記有機飼料作物226ha、有機畑作物77ha
乳用牛飼養頭数2,297頭(うち有機牛568頭)
- 協議会の農業者数
現在70人、有機農家戸数7戸、目標(24年度)10戸
- 協議会の売上
現在462百万円、目標(24年度)604百万円
- 農産物の主な取引先
国内乳業メーカー、国内生協、宅配、町内ほか

④協議会代表の一言

06年に日本初の有機牛乳を出荷。北海道での有機農業の推進を目指し、地域協議会を設立。大規模な畜産と畑作の有機農業の連携による地域づくり『有機の「つべつ」の勇気』を合言葉に取り組んでいます。

連絡先: 〒092-0292 北海道網走郡津別町字幸町41番地
(役場内)津別町有機農業推進協議会
TEL0152-76-2151 FAX0152-76-2976
メール kanehira-masaaki@town.tsubetsu.lg.jp
HP <http://www2.ocn.ne.jp/~sinohiro/index.html>
担当 産業課農政グループ 兼平



津別町

(平成23年3月末現在)・オホーツク管内最南端の町
・人口 5,744人(2,595戸)・面積 約716.60km²

有機農業公開セミナーin北海道・津別を共催



消費者向け講演会

サツマイモの試験栽培



国内初の有機牛乳

消費者との交流

有機牛肉の生産



現地検討会の開催



一関地方有機農業推進協議会（岩手県）

生きものの力を最大限に活かした有機農業を

取り組みの体制

一関地方（一関市・平泉町）における有機農業の推進を図るため、有機農業者や一関市、一関市農業委員会、一関市教育委員会、平泉町、県農業改良普及センター、県農林振興センター、JA、産地直売所などの関係団体で組織し活動する。

取り組みの主な内容

- ・参入希望者に対する指導・助言を行い、なるべく自然環境へ負担のかからない農業生産方式への転換を図る。
- ・地域の立地条件に適応した技術を確認するため実証ほを設置し、地域の資源を有効活用した循環型農業を実践する。
- ・有機農産物の流通・販売を促進し、農業所得の向上を図る。
- ・消費者等に対する有機農業に関する普及啓発及び有機農業者、消費者等の交流を行い、安全で安心な食料を提供する。
- ・学校給食へ積極的に地元農産物を供給し、将来を担う子ども達の食育の向上を図る。

生産概要

- 有機農業者数
現在 27人 目標（平成27年度）30人
- 有機農業実施面積
現在 15.4ha 目標（平成27年度）17.4ha
〔主要作目：米〕 〔主要作目：米・野菜〕
- 有機農産物の生産量（格付数量）
現在 27t 目標（平成27年度）31t
- 有機農産物の産出額
現在 939万円 目標（平成27年度）1,038万円
- 有機農産物の主な取引先
自然食品取扱業者、環境保全米流通業者、県アンテナショップ、レストラン、農産物宅配サービス業者、産地直売所、給食、ふるさと便、個人宅配



食の安全・安心について学ぶ
有機農業者を講師とした食育学習会



田んぼの学校の活動をまとめた
「みんなの笑顔」

協議会代表の一言

東日本大震災では多くの皆様のご支援をいただき、誠にありがとうございます。

私たちが目指す有機農業は、自然の力を恵みとして、自然が本来持つ循環機能を維持増進させ、微生物やイトミミズ、カエル、クモなど多くの生きものの力を最大限に活かして作物を育てることです。作る人の健康、食べる人の健康、そして地球の健康まで全てを可能にするのが有機農業です。有機農業を面に広げていきたいので、ご協力をお願いいたします。

代表 小島 幸喜



連絡先

〒029-0523 岩手県一関市大東町摺沢字菅生前61-26
一関市北部農業技術開発センター内

TEL 0191-75-2922 FAX 0191-75-2923

E-mail hokubunokai@city.ichinoseki.iwate.jp

担当者 小野寺 健

JAみどりの有機農業推進協議会（宮城県）

資源循環型農業の構築をめざす

取組の体制

みどりの農協・稲作関係生産組織・大崎市・美里町・涌谷町・美里農業改良普及センターを構成員とし、複数の市町村(大崎市・美里町・涌谷町)を活動範囲とする広域連携型の有機農業を推進しています。

取組の主な内容

1. 資源循環型農業の構築

地域全体で農地水環境保全向上対策による田んぼや水路の保全活動や化学肥料・化学合成農薬を削減した栽培を実践し環境保全米及び有機米の生産拡大を目指します。

2. 有機農業への理解増進と販路の確保

消費者との交流、体験学習の受入、活動成果の情報提供などにより消費者への理解増進を図るとともに商談会での仕入れ企業様への提案や小売店での販促活動の実施により販路の確保・拡大を目指します。

生産概要（平成22年12月末）

1. 農業生産の概要

米 受益面積 8,946ha
うち有機JAS栽培 58.71ha(対前期比 -1.08ha)

2. 有機農業者 35人(対前期比 +2人)

うち有機JAS農業者 14人(前期比 -1人)

3. 協議会売上高 8千4百万円(前期比 +1千4百万円)

うち有機JAS分 3千6百万円(対前期比 +1千万円)

4. 取組課題

- 1) 有機農業者育成
- 2) 水稻雑草対策
- 3) 販路の確保



有機米生産の課題とされる雑草対策として除草機の実演会を開催



生協様店舗での販促促進活動



生協様との交流事業



生協様との交流事業(生き物観察)

協議会代表の一言

有機農業を頂点とした環境保全米を主体とした産地づくりを推進しています
さらに、消費者の皆様と農作業体験や交流活動、小売店での販促活動など積極的に展開しています。

連絡先：JAみどりのマーケティング室

989-4308 宮城県大崎市田尻沼部字富岡174番地

Tel.0229-87-3344 Fax0229-87-3406

mail <http://www.ja-midorino.or.jp/>のお問合せからお願いします。

(参考説明)

- 受益面積＝農業センサスより ●有機米栽培面積＝JAみどりの取扱値(集荷数量/反収)
- 有機栽培には農業化学肥料不使用栽培含む ●売上＝平成22年1月～12月まで、JAみどりの取扱値(出荷分)

加美よつば有機農業推進協議会（宮城県）

自然豊かな環境条件を活用した有機農産物生産

取り組みの体制

加美よつば有機米生産部会を中心に、地域における有機農業の取組の拡大・定着を図り環境保全を重視した農業生産を推進。

取り組みの主な内容

- ・有機農業者の育成・確保
- ・農作業体験を活用した食農教育
- ・生物多様性を活かした水田雑草抑草、収量安定技術の確立
- ・学校給食への有機米の供給推進
- ・有機農業による安定かつ持続的な農業経営の確立

生産概要(H22年12月末)

○ 農業生産物の内訳(有機栽培)

- ・有機農産物栽培面積 82.1ha（対前期比+3.1ha）
- a) 有機JAS認証面積 74.7ha（対前期比+3.4ha）

○ 有機農業者数

- ・有機農家 34人（対前期比+2人）
- ・有機JAS認証農家 29人（対前期比+1人）

○ 協議会の売上高

- ・約70,000千円

○ 農産物の主な取引先

- 有機米実需業者、やくらい土産センター、JA農産物直売所



協議会代表の一言

秀峰、薬菜山を眺望できる場所に位置する加美・色麻町、常に奥羽山脈から清らかな一番清水が流れ込む田んぼがあり、環境と一体化した美しい田園が広がります。

その地で、加美よつば有機米生産部会は自然豊かな環境条件のもと、消費者ニーズに対応した安全・安心な有機農産物生産に努めております。

平成20年産米より、青森県 木村 秋則氏の指導を仰ぎ自然栽培米の生産にも取り組んでおります。

連絡先:

〒981-4265 宮城県加美郡加美町字矢越220番地
 TEL(0229)63-3761 FAX(0229)63-3768
 URL <http://www8.ocn.ne.jp/~jayotuba/>
 E-mail beikoku@ja-kami.or.jp

栗原市有機の会

心と体と地球にやさしい有機農法

取り組みの体制

国・県・JA栗っこ・栗原市・関係団体等と連携協力のもとに育苗供給施設を核とした有機農業等の推進

取り組みの主な内容

- ・実証圃設置による有機農業の技術普及と検証
- ・育苗供給施設を核とした有機農業の普及拡大
- ・JAアグリスクールと連携し、子供たちに対する食育
- ・新規有機農業者に対する支援(技術指導会等の開催)
- ・消費者との交流活動(交流イベント等)
- ・有機農産物の販売促進(普及啓発)
- ・くりはらツーリズムネットワークと連携し有機農法の理解

〈農業生産の概要〉

水稲 10ha(対前年比 ±0)うち有機JA栽培10ha(対前年比 ±0)
 大豆 0ha(対前年比 ±0)うち有機JA栽培0ha(対前年比 ±0)
 協議会の農業者数 10名(対前年比 ±0)
 うち有機JAS農業者 2名(対前年比 ±0)
 協議会の売上 6,300千円(対前年比 ±0)
 うち有機JAS分 6,300千円(対前年比 ±0)

生き物調査(あぐりスクール)



協議会代表の一言

有機農業普及拡大のため有機農業の基本となる種苗(水稲・大豆)供給施設を核とし有機農業実践者に供給し、安全・安心な農作物の栽培を広め、消費者が有機農業により生産される農産物を容易に入手できるよう有機農業のモデルタウンとして地域環境負荷低減に努め、みんなが健康で、安心して暮らせる地域を目指す。

連絡先

〒987-2293

宮城県栗原市築館薬師一丁目7番1号

栗原市産業経済部農林振興課内

栗原市有機の会 代表 斎藤政憲 担当者 伊藤仁志

TEL:0228-22-1135 FAX:0228-22-0315

大潟村有機農業推進協議会（秋田県）

広大な土地を活かした大規模営農 ～水稲の有機栽培面積は549ha～

①取り組みの体制

村、JA、カントリーエレベーター公社がともに有機農業者を積極的に支援。キャンペーン等も合同で行う。

②取り組みの主な内容

首都圏などで開催される、キャンペーンや交流会を通じて、有機農業の啓発と販路拡大を図る。

また、実証圃による技術検証や講習会を開催し、安定的に生産できる技術の確立と労働時間の削減を図ることで新規有機農業就農者の増加に繋げる。

上記の取組を中心に、大潟村内での有機農業取組面積の拡大を目指す。

③生産概要（H22年度）

- 農業生産物の内訳（目標年：H27年）
 - ・水稲 8,305.5ha（うち有機栽培 549ha）→（有機目標面積 750ha）
 - ・大豆 386ha（うち有機栽培 184ha）→（有機目標面積 190ha）
 - ・野菜 40ha（うち有機栽培 5ha）→（有機目標面積 15ha）
- 協議会の農業者数
 - ・16人（ただし、補助金の受益者は村民全員）
- 協議会の売上
 - ・なし
- 農産物の主な取引先
 - ・個々の農家による直接販売の為、集計不能

④研修会風景



H21.7.30
有機農業の現地研修会

H21.11.20
有機野菜の栽培研修会



⑤協議会代表の一言

「食の安全・安心を求める声に応えるため、有機農業をさらに進歩させたい。同時に環境保全型農業としての役割を意識し、この活動を続けていくことで、日本農業が抱える問題解決の足掛かりになればと思っています。」

大潟村有機農業推進協議会
会長 佐藤 誠

⑥連絡先：010-0494 秋田県南秋田郡大潟村字中央1-1

tel 0185-45-3653 fax 0185-45-2162

mail g-shoji@ogata.or.jp 担当 庄司 都志哉

鶴岡市有機農業推進協議会（山形県）

関係機関との連携で市全域に有機農業を推進

取り組みの体制

JAや鶴岡市・県の出先機関・大学などと連携し、有機農業振興を目的とした各種取り組みを推進。

取り組みの主な内容

- 有機農業と命の学校
 - ◇楽しい野菜づくりコース
(有機農業にふれ、有機農業の実態を学ぶ。消費者の理解の増進)
- 有機栽培技術実証展示
 - ◇疎植稲作、除草体系、イネミズゾウムシ対策、生き物調査等
- 有機農産物の流通・販売の拡大(商談交流会、ホームページの活用)
- 有機農産物の自給の推進(家庭菜園で有機栽培)
- 食育と環境教育の推進
- 給食への地場産有機農産物の活用
- エコタウン塾の開催

生産概要(H22年12月末)

- 農業生産物の内訳
 - 米 65ha(対前期比 ±0ha)
うち有機JAS栽培62ha(対前期比 ±0ha)
 - 野菜 22ha(対前期比 +9ha)
うち有機JAS栽培7ha(対前期比 ±0ha)
- 協議会の農業者数
 - 有機農業者 73人(対前期比 ±0人)
 - うち有機JAS農業者35人(対前期比 ±0人)
- 協議会の売上
 - 協議会の売上高 155,733千円(対前期比 ▲22,412千円)
 - うち有機JAS分 121,355千円(対前期比 ▲22,676千円)
- 農産物の主な取引先
 - 大手百貨店、スーパーチェーン、有機農産物取扱
専門業者、産直施設、宅配 ほか



イネミズゾウムシ対策
(畦畔)



アイガモ除草法調査圃場



チェーン除草調査圃場



田んぼの生きもの調査

協議会代表の一言

鶴岡市の有機農業は藤島地域を中心に長く、積極的に取り組まれてきました。ソフト・ハード両面で環境が整いつつあります。

今後は鶴岡市全域に有機農業を推進していくために、市の有機農業推進計画の策定と会員の拡大をすすめて行きたいと思っております。

連絡先：〒999-7601 山形県鶴岡市藤島字笹花25
鶴岡市有機農業推進協議会事務局(鶴岡市藤島庁舎エコタウン室)
Tel.0235-64-5803 fax0235-64-5847 <http://www.tsuruoka-yuuki.jp/>

遊佐町有機農業推進協議会（山形県）

生活クラブ生協と連携した顔の見える関係

取り組みの体制

生活クラブ生協との連携・協力のもとで有機農業の推進や自給力向上及び非遺伝子組換え作物の生産

取り組みの主な内容

・耕畜連携による堆肥の利用

1,300haの面積で特別栽培を行い県の認証とエコファーマーを取得し堆肥の投入を義務付けしている

・特色ある販売体制の構築

生活クラブ生協と連携し生産された物の価格・農法・基金の積立等を協議し産地・消費地での交流を中心とした顔の見える関係を構築している

・肥料の試作

遊佐町で生産される資材(大豆・米ぬか・ナタネ油粕・飼料用米を食べた豚の骨等)を使用し有機肥料を試作「ゆざづくし」

生産の概要(H22年12月末)

○農業生産物の内訳

米 20ha(対前期比+0ha) うち有機JAS栽培 0.8ha(対前期比+0ha)
野菜 エゴマ 4.8ha(対前期比+2.3ha)うち有機JAS無し

○協議会の農業者数

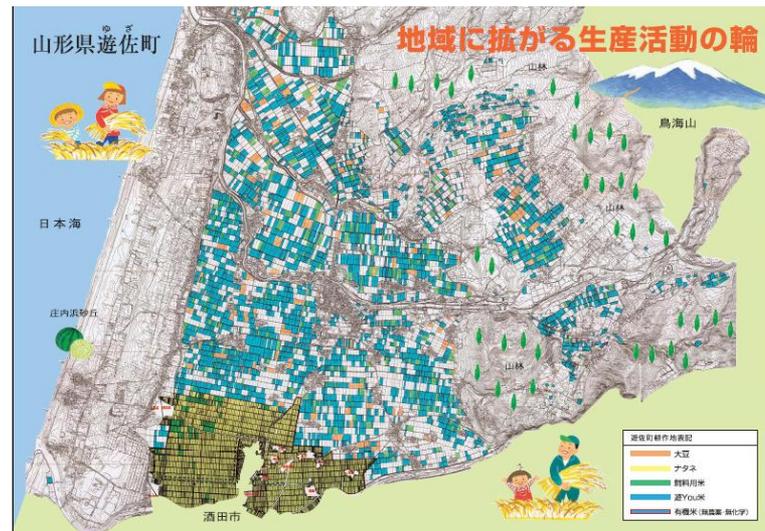
有機農業者42人(対前期比+14人)うち有機JAS栽培 1人(対前期比+0人)

○協議会の売上

協議会の売上高 45059千円(対前期比845千円)うち有機JAS栽培1080千円(対前期比+0円)

○農産物の主な取引先

生活クラブ生協ほか



協議会代表の一言

おいしい米を多くの人に味わってもらいたいと始まった遊佐の有機農業推進協議会。安全・安心は、食品において今以上に重要になってきます。遊佐町は地域一体型の減農薬・減化学肥料栽培を進める上で有機栽培の可能性を目指します。町の山、川、海の自然が我々農家に豊かな収穫の恵みを与えるように、皆さんの家庭に真の「食の豊かさ」をお届けします。

連絡先：〒999-8301 山形県飽海郡遊佐町広表6-1
遊佐町共同開発米部会(JA庄内みどり遊佐支店内)
TEL0234-72-3234 FAX0234-72-3238
メールyuyou@ja.midorinet.or.jp

最上地域有機農業推進協議会(山形県)

「拓土塾」を中心とした人材育成による有機農業の拡大

取り組みの体制

最上地域の1市4町3村とJA、農業法人等が連携し、有機農業新規参入を目指した人材育成を中心に据えて、広く全国に先進事例を求め、地域の特長を生かした有機農業等の推進を図る。

取り組みの主な内容

- 雇用型農業実践塾「拓土塾」の展開(塾長:全国指導農業士会会長・栗田幸太郎) 塾生5名、栽培実証ハウス5棟、露地栽培圃場2ヶ所、講演・講習会4回、視察研修3回
- 有機農業推進シンポジウムの開催 2回
- 首都圏等への販売促進活動 3回、消費者・実需者との交流活動 2回
- 実証圃による栽培実証、有機農産物栽培取組の拡大
- 有機農産物提供レストラン開設準備

生産の概要(H22年12月末)

- 農業生産の概要
 - 米 11,500ha うち特別栽培823ha(対前期比+4ha)
有機栽培 31ha(対前期比+7ha)
 - 野菜 1,170ha うち特別栽培14ha(対前期比+3ha)
有機栽培2ha (対前期比+1ha)
 - 農業生産物 米、野菜(パプリカ、ピーマン、カボチャ、小松菜他)
- 協議会の有機農業者数
現在 12人(対前期比+2人) 目標(27年度) 30人
- 協議会の売上
現在 49,854,000円(対前期比+4,974,000円)
目標(27年度) 73,320,000円
- 農産物の主な売り先
大手百貨店、産直施設、生協ほか

「拓土塾」の実践研修



平成23年度塾生:
中野竜志(新庄市) 指村僚汰(新庄市) 小沼智(金山町)
庄司翼(最上町) 栗田昌和(真室川町)

協議会代表の一言

事業開始3年目を迎え、「拓土塾」も順調に運営されているようです。新庄市エコロジーガーデン(旧農林省蚕糸試験場跡地)を拠点に、新庄・最上地域の「有機の里」構想実現のため、協議会が一体となって有機農業を推進してまいります。

最上地域有機農業推進協議会
会長 山尾 順 紀 (新庄市長)

連絡先 : 996-8501 山形県新庄市沖の町10-37
新庄市役所農林課農業公園室
TEL:0233-22-2111 FAX:0233-22-0989
メール nourin@city.shinjo.yamagata.jp

喜多方市環境にやさしい農業推進協議会（福島県）

自然立地条件に適した有機農業を推進

取り組みの体制

喜多方市との連携・協力により当地域の自然立地条件に適した有機農業を推進する。

取り組みの主な内容

- ・有機農業の推進
有機農産物の産出額、農業者数及び実施面積等の調査、取組内容を紹介するためのパンフレット・リーフレット作成・配布等
- ・販売企画力の強化
有機農産物販路拡大のためのPR活動及び普及啓発
- ・生産技術力の強化
生産技術力強化のための先進地視察の実施
- ・人材育成力の強化
有機JAS認証制度等に関する研修会の開催

○ 農業生産の概要(H22年12月末)
米 6,791ha(うち有機栽培74ha(対前期比-1ha))
野菜 1,085ha(うち有機栽培10ha)
(とうもろこし、ジャガイモ、アスパラ、タマネギ、トマト、きゅうり、かぼちゃ)
その他 48ha(うち有機栽培5ha)
(そば等)

○ 有機農業実践者
H22年度:52人(94ha)、目標(H27年度):64人(102ha)

○ 有機農産物の生産量
H22年度:619t、目標(H27年度):679t

○ 農産物の主な売り先
生協、有機農産物専門店、地元直売所、個別取引



有機農業ほ場での子どもたちの農作業体験

協議会代表の一言

本地域では、より安全・安心な農作物を生産するため、エコファーマー栽培や特別栽培に取り組む農家が多く、有機栽培への関心も高くなってきています。また、市内の一部地域(熱塩加納地区)では、従来から有機農業の取組みがなされており、地域の学校給食にも食材として供給されています。

美味しく、安全・安心な農産物を生産するため、地域性を活かしながら創意工夫を凝らした生産体制の確立を目指しています。

連絡先:966-8601 福島県喜多方市字御清水東7244-1
喜多方市産業部農林課内 担当者 福地精治
TEL 0241-24-5235 Fax 0241-25-7073
Eメール nourin3@city.kitakata.fukushima.jp

やさと有機農業協議会（茨城県）

～有機農業を地域の産業に～

①取り組みの体制

石岡市、JAやさと、生産者、生協、普及センターにより運営委員会を構成し有機農業を推進

②取り組みの主な内容

- ・JAの新規参入研修事業の支援、新規参入生産者支援
- ・実証圃の設置、土壌分析、栄養分析、指導会の開催
- ・生協組合員と生産者の交流、有機農業体験の提供、HPによる広報活動
- ・生協組合員への情報提供
- ・転換説明会の開催

③生産概要

生産概要（H22年12月末）

○農業生産物の内訳

水稲（13.4ha）、野菜（38ha）

○協議会の有機農産物栽培面積 51.4ha（対前期比 +16.6ha）

うち有機JAS認証ほ場面積 40.8ha（対前期比 +3.2ha）

○協議会の有機農業者数 27人（対前期比 +3人）

うち有機JAS認定農家戸数 24（対前期比 ±0）

○協議会の生産量 371t

うち有機JAS認証農産物生産量 307t

○協議会の売上 97,022千円（対前期比 ▲8,884千円）

○農産物の主な売り先

生協、スーパー、市場、JA直売所、業務用ほか



⑤協議会代表の一言

（田村和夫JAやさと組合長）

地域に根ざした有機農業を、地域の産業として広めていきたい。また、農業を希望する新規就農者と地域の後継者の育成を進めていきたい。

⑥連絡先:

住所: 〒315-0116茨城県石岡市柿岡3236-6（JAやさと本所内）

電話: 0299-43-1101 FAX: 0299-43-1106

Eメール: pd6kp8@bma.biglobe.ne.jp HP: 準備中

担当者: 事務局長 柴山 進

高崎市倉渕町有機農業推進協議会（群馬県）

～20年以上有機農業を実践～

①取り組みの体制

農業者、高崎市倉渕支所

②取り組みの主な内容

- ・新規就農希望者に対する指導
参入希望者への技術指導、研修の受入
- ・技術の実証
堆肥製造・土壌分析、硝酸イオン・糖度調査、
堆肥成分調査
- ・その他
技術実証とその結果を用いた講習会の開催

③生産概要（H22年12月末）

- 農業生産物の内訳
野菜（680a）
- 協議会の有機農産物栽培面積 680a（対前期比 +20a）
うち有機JAS認証ほ場面積 6.5ha（対前期比 ±0）
- 協議会の有機JAS農業者数 45人（対前期比 +3人）
うち有機JAS認定農家戸数 7（対前期比 ±0）
- 協議会の生産量 1,700t（対前期比 +50t）
うち有機JAS認証農産物生産量 163t（対前期比 ▲17t）
- 協議会の売上 231,500千円（対前期比 ▲24,255千円）
- 農産物の主な売り先
専門業者、宅配ほか



⑤協議会代表の一言

地域では、倉渕地区を中心として20年以上有機農業が実践されています。地域内で未利用の有機質資源の利活用、安全な農産物の生産、有機農業による新規就農者への研修に重点を置いています。

⑥連絡先：〒370-3402

群馬県高崎市倉渕町三ノ倉303

高崎市倉渕支所産業課 担当：武井

電話 027-378-3111

E-mail takei3389@city.takasaki.gunma.jp

小川町有機農業推進協議会（埼玉県）

～地域全体で有機農業の取組みを拡大～

①取組みの体制

行政、有機農業生産グループ、JA埼玉中央・直売組合、認定農業者 などの全ての関係農業団体、NPOふうど、消費者団体、県が 構成団体となり、地域全体で有機農業の取組みの拡大を図る。

②取組みの主な内容

- ・新規参入希望者への支援
有機農業学校（研修生受入れ体制の整備）、学習会など
- ・実証ほの設置
水稲（除草）、野菜（天敵利用技術）、慣行農家の転換実証
- ・流通、販売の促進
講習会（直売農家の売り方）、ソフトスチーム加工を利用した新規加工品の開発
- ・消費者との交流、先進地視察・交流など

③生産概要（H22年12月末）

- 農業生産物の内訳
水稲（5.8ha）、麦・大豆（5.5ha）、野菜（16.8ha）
- 協議会の有機農産物栽培面積 28.1ha（+6ha）
うち有機JAS認証ほ場面積 0（対前期比 ±0）
- 協議会の有機農業者数 23人（対前期比 +1人）
うち有機JAS認定農家戸数 0（対前期比 ±0）
- 協議会の生産量 1,650t（対前期比 +37t）
うち有機JAS認証農産物生産量 0t（対前期比 ±0）
- 協議会の売上 88,700千円（対前期比 5,280千円）
- 農産物の主な売り先
スーパー、専門業者、加工業者、宅配ほか



相談会（新農業人フェア）



種子採り講演会

⑤協議会代表の一言

現在の小川町の農業において、有機農業は地域農業の担い手として重要な役割を担っています。消費者の理解を得て、地域が有機農業の推進を支援することで、循環型社会への貢献、地域農業の振興及び安定的な農業経営体の育成を図り、地域の活性化が期待されます。また、他の地域と連携し、情報交換などを行うことで、本事業がより効果的に実施されることを期待します。

- ⑥連絡先：事務局〒355-0328埼玉県比企郡小川町大塚55
小川町産業観光課農林政策担当 TEL0493-72-1221
Email: ogawa110@town.ogawa.saitama.jp

北総地区有機農業拡大協議会（千葉県）

～有機農業で地域農業の活性化を～

取り組みの体制

千葉県の成田市ほか9市町にまたがる、有機農業者と(株)生産者連合デコポンによる販売拡大と新規参入による有機農業の拡大を推進

取り組みの主な内容

- ・勉強会の開催
- ・有機農業体験市民農園の設置
- ・農業体験の実施
- ・有機農業者と消費者の交流イベントの開催
- ・土壌診断、栄養分析、堆肥分析の実施
- ・新農業人フェアへの参加



若手生産者および取引先による園地巡回

生産概要(H22年12月末)

- 農業生産物の内訳
野菜（ほうれん草、小松菜、水菜、人参など）
- 協議会の有機農産物栽培面積 86.3ha(対前期比+1.4ha)
うち有機JAS認証ほ場面積 4,595ha(対前期比 +1.5ha)
- 協議会の農業者数 34人(対前期比 +2人)
うち有機JAS認定農家戸数 19(対前期比 ±0)
- 協議会の生産量 1,010t(対前期比 +25t)
うち有機JAS認証農産物生産量 669t(対前期比 +40t)
- 協議会の売上 306,522千円(対前期比 ▲17,195千円)
- 農産物の主な売り先
自然食品店、通信販売業、外食業、生協ほか

協議会代表の一言

この千葉県北総地区を、日本で有数の有機農業先進地域とするためにも、「北総地区有機農業拡大協議会」を中心に、一步一步確実に、有機農業者を増やし、そして有機農業の事例の普及とともに、地域農業の活性化を図っています。また、新規参入希望者の研修受入を行っています。

連絡先：(株)生産者連合デコポン 〒287-0222
千葉県成田市前林976-7 TEL 0476-49-0181
担当：竹中・長谷川 takenaka@decopon.co.jp

山武市有機農業推進協議会（千葉県）

～6ヶ月間の有機農業研修で新規就農を支援～

①取り組みの体制

さんぶ野菜ネットワーク(有機農家の組合・販売法人)・
ワタミファーム(生産法人)・大地を守る会(宅配事業者)・
山武市役所・JAが連携し、担い手育成を行っています。

②取り組みの主な内容

◇有機農業研修(6ヶ月間) ◇新規就農支援

山武市での新規就農を希望される方を対象に、地域の
有機農家による実践的有機農業研修を行っています。
研修・就農についての相談は随時受付中です。
まずは私どもにご相談ください。
ご連絡はメール、または電話にて(連絡先: ページ右下)

生産概要(H22年12月末)

○農業生産物の内訳

野菜（人参・里芋・葉物類等、年間約80品目）

○協議会の有機農産物栽培面積 125ha

うち有機JAS認証ほ場面積 50ha(対前期比 +11.8ha)

○協議会の農業者数 53人(対前期比 +5人)

うち有機JAS認定農家戸数 33(対前期比 +1)

○協議会の生産量 2,100t

うち有機JAS認証農産物生産量 1,160t

○協議会の売上 502,584千円(対前期比 ▲18,583千円)

○農産物の主な売り先

有機農産物専門流通事業体、生協、外食、小売、
学校給食等

山武での就農のメリット

①仲間がたくさん集まっています。
(50軒以上の有機農家が約5km
圏内に集まっています)
先輩農家達が就農・農業経営の
相談にのってくれます！

②営業・販売はお任せ！
さんぶ野菜ネットワーク
(農家組合・販売法人)が、
野菜の営業・販売を担います。
取引先約40社(年間)



⑤協議会代表より皆様へ

私達は有機農業研修・新規就農支援を中心に活動
しています。研修生の受入れは私たちに大きな刺激
となり、経営のあり方、農業との関わり方を見直す機
会となっています。新しい仲間を迎え入れ、共に地
域の有機農業を持続・発展させ、有機農産物の生産
量の増大、消費者の有機農業への理解が深まるよ
う努めていきたいと考えています。

【お問い合わせ】協議会事務局(さんぶ野菜ネットワーク内)

〒289-1223 千葉県山武市埴谷1740 (担当:川島)

E-mail; : kawashima@sanbu-yuki.com

TEL: 0475-89-0590 FAX: 0475-89-3055

協議会HP: <http://www.sanbu-yuki.com/>

小田原有機の里づくり協議会（神奈川県）

～いのちにやさしい食と農が、いつでも身近に豊かに～

① 取り組みの体制

小田原を中心に活動をしている4つの団体の協力・連携によって、有機農業を活用した地域農業の充実を進めます。

② 取り組みの主な内容

1. 有機農業実践者による講演会を行い、有機農業の参入者を広げる。
2. 多様な取り組みを実証し、有機農業技術の確立を図る。
3. 学校給食や手作り教室、農業祭りを活用した有機農業生産物の流通・販売の促進
4. 農業体験や田畑の生き物調査などを通じた消費者との交流により、有機農業の普及啓発を進める。
5. 有機農業の更なる学びのための先進事例の現地視察

③ 生産概要（H22年12月末）

○農業生産物の内訳

水稻(4.2ha)、野菜(3.0ha)、果樹(16.4ha)

○協議会の有機農産物栽培面積 23.6ha(対前期比+3ha)

うち有機JAS認証圃場面積 10.3ha(同±0)

○協議会の有機農業者数 63人(同+2人)

うち有機JAS認定農家戸数 25戸(同±0)

○協議会の生産量 133t(同+19t)

うち有機JAS認証農産物生産量 73t(同+5t)

○協議会の売上 150,500千円(同▲21,500千円)

○農産物の主な売り先

学校給食、生協、大手量販店、有機食品業者、ほか

④ タマネギ栽培体験・箱根地産Café出店



⑤ 協議会代表挨拶

自然環境に恵まれ、冬も温暖、大都市圏にも近い当地域は、農家から市民までが、年間を通じて様々な形の「農」に取り組むことが可能な地域であり、有機農業推進の高いポテンシャルを持っています。安心安全な旬の作物の生産消費拡大はもちろんのこと、いのちにやさしい食と農がいつでも身近に豊かにある、そんなライフスタイルが可能な地域を目指して、幅広い活動展開を進めます。

⑥ 連絡先

〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪300
TEL 0465-33-1494 FAX 0465-33-1286
小田原市農政課農林業振興係 渡邊弘二



やまなし有機農業連絡会議（山梨県）

～県内14団体、224名の会員をもつ組織～

①取り組みの体制

有機農業推進14団体と山梨県、県下7市の連携による有機農業の推進。

②取り組みの主な内容

- ・やまなし有機ブランドの構築
 - 消費者・流通小売業者等に対する有機農業の理解促進活動を実施参加して普及啓発を行う。
- ・有機農業技術の実態把握と生産技術の向上
 - 現状、県内外で行われている有機農業の実態把握と実証を行い、技術の整理体系化を行いつつ、圃場の生物メカニズム理解による生産技術の向上を目指す。
- ・農業・有機農業への理解促進
 - 既存の新規就農支援システムを補完する「出口機能」としてのネットワークを構築することとともに、有機農業経営者の能力向上のための研修を実施する。

③生産概要

- 農業生産物の内訳
 - 野菜 3,440ha(うち有機栽培45.89ha)
 - 果物 11,000ha(うち有機栽培28.23ha)
 - その他 158ha(うち有機畜産1.0ha)
 - 米 5,530ha(うち有機栽培2.35ha)
- 協議会の会員数
 - 224名(生産者・流通小売業者・消費者含む)
- 協議会の売上
 - 現在327百万円 目標(24年度)473百万円
- 農産物の主な取引先
 - 生協、大手通販業者、地元・大手小売店、直売所、道の駅



A. 有機圃場調査
B. 普及イベント
C. 農業への理解促進

⑤協議会代表の一言

やまなし有機農業連絡会議では、県内14団体・224名の会員により構成されている団体のため、事業の方向性決定や各種判断に時間が掛かることが少なからず起こってきました。そのため、各団体の代表や会長により選出された役員会にて意思決定を行い、活動を行ってきました。しかし、2年間の活動の結果、本会としての方向性が明確化し、構成団体間の横の連携もさらに強くなったことから、今年度からはプロジェクトチーム方式によって、活動を行うことを決定しました。今後、多くのプロジェクトスタッフが活躍し、複数の事業がパラレルで動き出すため、さらに山梨の有機農業は拡大していくことと期待しています。

⑥連絡先：〒400-1121 山梨県甲斐市上芦沢1316

☎090-2149-4389 / メール magonote-2008@sand.ocn.ne.jp

阿賀野市有機農業推進協議会（新潟県）

粃殻・おからなど未利用有機資源を活用

①取り組みの体制

阿賀野市及び産直部会との連携・協力のもとで未利用有機資源を利用した資源循環型有機農業を推進

②取り組みの主な内容

- ・耕畜連携による地域内での有機資源の循環
現在、地域の畜糞、粃殻、おからを使用し、ゆうき子（堆肥）散布を実施。また、おからペレット肥料の試作実証
- ・特色ある販売体制の構築
実需者を産地に招き、特色ある栽培内容などをPR
- ・消費者との交流と環境（生き物）調査の実施
消費者との交流による食育と生き物調査の活用による有機農業の普及啓発の推進

③生産概要

- 農業生産物の内訳
米 1,354ha（うち、有機JAS栽培18.7ha）
- 協議会の農業者数
有機農業者32人（うち、有機JAS農業者30人）
※目標（27年度）40人
- 協議会の販売量
77.9トン（うち、有機JAS分68.4トン）
※目標（27年度）108トン
- 農産物の主な取引先
生協・加工実需者ほか

④有機農業研修



消費者との交流



⑤協議会代表の一言

笹神地区では早くから消費者との交流に取組み、平成2年の「有機の里」宣言にともない堆肥散布による土づくりと環境保全型農業を実践してきました。

現在は、有機農業の希望者に対し「ささかみ本気塾」を開設し、就農支援や技術支援もしています。

今後はさらに環境、生き物に配慮した有機農業の拡大を推進していきます。

⑥連絡先

〒959-1919 新潟県阿賀野市山崎58番地（JAささかみ）
電話：0250-62-2410 FAX：0250-62-1426
担当者：田中政喜 E-mail：m-tanaka@ja-sasakami.or.jp

金沢市有機農業推進協議会（石川県）

モデルタウンを育成、面的拡大を図る

①取り組みの体制

金沢市、実需者、流通業者等と連携し有機農業を中心とした金沢市域の農業振興の推進を図る。

②取り組みの主な内容

- 売れる農産物・農産物加工品の製造・販売
米、麦、大豆等加工品の開発、出荷先の多角化、ブランド化
- 安定生産、安定・長期出荷、労力軽減
新品種導入、除草技術の確立、米・麦・大豆のブロックローテーション栽培等
- 新規就農者、慣行農法からの転換者の増加
実需者・バイヤーを講師とした講習会開催等

③農業生産の概要

- ・作付面積

米	14.0ha
麦	121.5ha
大豆	121.5ha
野菜（小松菜）	3.0ha
- ・協議会の農業者数
現在 21戸 目標(27年度) 26戸
- ・協議会の産出量
現在 394t 目標(27年度) 432t
- ・協議会の生産額
現在 155,000千円 目標(27年度)170,000千円

④各種取組状況

○田植えイベント



○加賀野菜加工商品開発



⑤協議会代表の一言

農業者が有機農業に容易に取り組み、また、消費者が有機農業により生産される農産物を容易に入手できるよう、有機農業の振興の核となるモデルタウンを育成し、有機農業の取組の面的拡大を図ることを目的とし設立しました。
有機農業に興味があり、新たに農業を始めたいと思っている方や、慣行栽培から有機農業に転換を考えている農家の方は金沢市有機農業推進協議会にご相談ください。

⑥連絡先： 〒920-3104 石川県金沢市八田町東9番地
金沢市有機農業推進協議会(株式会社 金沢大地内)
TEL 076-257-8818
FAX 076-257-8817

コウノトリ呼び戻す農法推進協議会（福井県）

名古屋COP10会場にも登場

①取り組みの体制

コウノトリ呼び戻す農法部会と越前市、福井県、JA越前たけふと連携・協力のもと、コウノトリが生息する環境の保全や有機農業を通じて産地の収益力向上を推進

②取組の主な内容

○コウノトリ呼び戻す農法米の学校給食への試験提供等を通じて次世代(将来)を見据えた消費拡大の推進、販売促進活動

○コウノトリ呼び戻す農法米の栽培技術(抑草、土づくり等)の確立及び後継者の育成と地域への広がり推進

○地域(白山・坂口)全域での有機農業の啓発を図り、将来的には越前市全域に有機農業を普及推進

※将来は地域での6次産業化への取組を図っていく

③生産概要

○農業生産物の概要

米 349ha(うち有機栽培5.2ha(目標20ha))

○協議会の農業者数

現在 15人(目標27人)

○有機農産物の生産量(米)

現在 15トン(目標 78トン)

○農産物の主な売り先

デパート、有機農産物取り扱い専門業者、JA直売所等

④各種活動状況



東京アンテナショップでの販売



チェーン除草の様子



生き物調査



冬みずたんぼ

⑤協議会代表の一言

H22年に開催された名古屋でのCOP10の会場で「コウノトリ呼び戻す農法米」がふるまわれました。まだまだ生産量が少ないので、これからも仲間を増やし、栽培技術を向上し多くの人に私たちの思いのこもったお米を食べていただきたいです。

連絡先: 〒915-8530 福井県越前市農政課内

TEL 0778-22-3009 FAX 0778-23-9907

E-mail nousei@city.echizen.lg.jp

白川町有機の里づくり協議会（岐阜県）

水源の里から広がる有機の輪

①取り組みの体制

白川町と町内のいくつかの有機農業グループが連携して環境への負荷をできる限り低減した農業を推進する。

②取り組みの主な内容

- ・「水源の里」として下流域の消費者の理解と協力を深める中で有機農産物の販路を確保する。
 - －交流イベントや通信発行
- ・研修施設「くわ山結びの家」を活用して有機農業者のIターンUターンを促す。
- ・稲作をはじめ、有機農産物の生産技術の体系を確立する。－会員相互の情報交換と外部研修

（主な構成団体）

NPO法人ゆうき
ハートネット
大豆畑トラスト
はさ掛けトラスト
赤河産直組合
郷蔵米生産組合
切井茶生産組合
白川エゴマの会
むらざと農園



研修施設「くわ山結びの家」

③生産概要（H22年12月末）

○ 農業生産物の内訳

水稲	9.1 ha	（対前期比 +0.3ha）
大豆	2.6ha	（対前期比 +0.1ha）
茶	1 ha	（対前期比 ±0ha）
野菜	2.9ha	（対前期比 +0.2ha）

（キュウリ、レタス、なす、かぼちゃ）

○ 協議会の農業者数

現在33戸 目標50戸（27年度）（対前期比 +2人）

○ 農産物の主な取引先

愛知県の消費者グループ、青空市、トラスト会員ほか

⑤協議会代表の一言

木曾川上流域の水源の里として、豊かで安全な水を守る責務を負っています。環境に負荷をかけない有機農業を推進することにより、下流域の消費者の皆さんのご理解とご支援をいただきながら、流域に自給の輪を広げていきます。

⑥連絡先：白川町有機の里づくり協議会事務局

〒509-1431 岐阜県加茂郡白川町黒川153-3
Tel.0574-77-1638

「オーガニックタウン伊賀」～子どもたちに安心できる食と環境を～

①取り組みの体制

有機農業者はじめ市民活動グループ、行政などと連携・協力して、有機農業の技術の普及、農産物の販売促進、新規就農者の育成支援活動に取り組む。

②取り組みの主な内容

- ◎安心できる食環境の大切さをアピールする
農・食・医健康教室の開講
- ◎有機農業の技術力を高める
有機農業講座、土壌分析と施肥設計、現地研究会
- ◎有機農産物の販売を促進する仕組みづくり
市場調査の実施、伊賀ブランドの発掘
- ◎子ども達の食の見直し
学校給食をより豊かで安心できるものへ

③生産概要(H22年12月末)(伊賀市・名張市)

- 農業生産物の内訳
 - 米 16 ha
 - 野菜(トマト、きゅうり、なす、ピーマン他) 29 ha
→ 目標(27年度) 56ha
- 協議会の農業者数
現在 38人 → 目標(27年度) 40人
- 農産物の主な売り先
産直・提携、有機農産物取り扱い専門業者、道の駅、宅配 ほか

④活動風景～伊賀オーガニックフェスタを開催！～

生産者と消費者が顔の見える関係を築き、有機農業を広く知ってもらうための地域密着型のイベントとしてオーガニックフェスタを開催しました。

普段なかなか交流が持てない生産者と消費者が直接意見交換できる有意義なイベントになっています。(年3-4回開催)



⑤協議会代表の一言

伊賀地域の有機農業が大きく前進することを願い協議会を立ち上げ、今年で2年目を迎えました。3人に1人が癌でなくなる時代に、食の安全はすべての人にとって最優先の課題です。目指すは「伊賀は安心できる食の里」。そのためには、有機農業を応援し、農を担う若者を育てよう！そして今を生きる大切な子ども達を安心できる食、安心できる環境・地域の愛情いっぱい育てたい！それがわたしたち伊有協会の願いです。

連絡先：〒518-0221 伊賀市別府740 (社)全国愛農会内 電
 話：0595-52-0108 FAX：52-0109 メールyama@ainou.or.jp
 担当者名：山本和宏ほか

高島有機農業推進協議会（滋賀県）

自然環境の豊かさと農業者の層の厚さが自慢

①取り組みの体制

行政機関（滋賀県、高島市）、高島地域農業センター、市内小中学校、民間稲作研究所、アミタ持続可能経済研究所等と連携をとりながら、生物多様性保全型稲作を中心とした有機農業の振興を図っている。

②取り組みの主な内容

○たかしま有機農法研究会が中心となり、「生きものの安心(生物多様性の保全)」「消費者の安心(食べ物の安全性)」「農家の安心(農産物からの安定収入)」の3つの安心の確立を目指して「たかしま生きもの田んぼプロジェクト」に着手。

○有機稲作の推進と併せ、冬季湛水、魚道・亀カエルスロープの設置、休耕田を活用したビオトープの設置など水田やその周辺の生物相に応じた生物多様性保全策を実施。

○また、農業者自らがマーケティングや営業活動、交流活動、情報発信などを実践することを通じて、「たかしま生きもの田んぼ米」のブランド化とファンづくりに取り組んでいる。有機大豆の生産や藁納豆の生産にもチャレンジ中。



「生活者」「農家」「生きもの」が共に安心できる関係づくりを目指し、各種活動を実施



20代の若手とベテラン
が共に技術研鑽に励む



独自の魚道・スロープ
の開発・設置



統一のロゴマークを
使用した販売
マーケティング活動

③生産概要 (H22年12月末)

○農業生産物の内訳

米 約32ha(対前年比+14ha) 大豆 約4ha(対前年比+1ha)
うち有機JAS栽培 米約8.4ha(対前年比+約0.5ha)
大豆約0.6ha(対前年比+約0.6ha)
(いずれも栽培期間中 化学農薬・化学肥料不使用栽培)

○有機農業産出額

平成22年実績 42,839千円(対前年比 +2,423千円)

○協議会の農業者数

現在 25戸(対前年比+1名) 目標(平成24年度) 38戸
うち有機JAS栽培農家 3戸(対前年比±0戸)

○農産物の主な取引先

百貨店、関東圏・関西圏の米穀店、インターネット等による直接販売 等

⑤協議会代表の一言

自然環境の豊かさと農業者の層の厚さが自慢です。安全性や環境保全、そして食味にこだわった高島の産物を、是非お試しください。

⑥連絡先: 高島有機農業推進協議会 事務局

高島市役所 産業経済部 農業振興課内(担当: 梅村 淳)
〒520-1592 滋賀県高島市新旭町北畑565
電話: 0740-25-8511 / FAX: 0740-25-8519
E-Mail: norin@city.takashima.shiga.jp

美山有機農業推進協議会（京都府）

条件不利の山間地で美山ブランドを確立

①取り組みの体制

美山自然農法の会、美山認証野菜生産者の会、美山ふるさと(株)、京都府南丹農業改良普及センター、南丹市役所美山支所産業建設課が連携・協力のもと、稲作や野菜作の有機農業等を推進

②取り組みの主な内容

- 山間地で不利な立地条件の中、美山ブランドとしての有機農産物を確立させ、農家の所得向上によるやりがいアップ
- 少量多品目の農業で、有機農業の裾野を広げる
- 地域の有機物資源(牛ふん、鶏ふん、モミガラ、コメヌカ、落ち葉、土)を活用した良質な完熟堆肥の生産と施用
- 年間70万人の観光客への販売体制の構築
- 学校給食への有機農産物等の供給
- 南丹市美山町から南丹市全域での取り組みへ



夏野菜の育苗と栽培管理講習会



ほ場巡回と講演会



都市農村交流

③生産概要（H22年12月末）

○農業生産物の内訳

- ◆米 262ha(対前年比▲8ha)(うち有機栽培4.5ha(対前年比+0.6ha))
- ◆野菜 29ha(対前年比▲1ha)(うち有機栽培2.0ha(対前年比+0.3ha))(とうがらし、はくさい、大根、キャベツ、他)
- ◆果樹 16ha(対前年比±0)(うち有機栽培0.5ha(対前年比±0))(いちじく)
- ◆その他 58ha(うち有機栽培0.0ha)(対前年比±0)

○協議会の農業者数

- ◆現在 48人(対前年比▲3人) 目標(25年度) 90人

○協議会の売上

- ◆現在 29,130千円(対前年比+330千円) 目標(25年度) 61,000千円

○農産物の主な取引先

- ◆有機農産物取り扱い専門業者、道の駅、町内直売所、宅配 ほか

⑤協議会代表の一言

美山有機農業推進協議会は、平成20年5月29日に設立されました。自然農法稲作や、化学合成農薬・化学肥料を使わない野菜作りのグループ、第3セクター、行政機関など、多くの団体が連携し協議会を構成しています。今年度は、新たな有機稲作のグループにも参画を呼びかけています。

活動を進めることで仲間が増え、有機農業に対する思いがより強くなってきました。京都府で唯一のモデルタウンとして、美山の地で作った安心・安全、そしておいしい農産物をより多くの消費者に提供できるよう、協議会の取り組みを進めていきます。

⑥連絡先：601-0797 京都府南丹市美山町島島台51

南丹市役所美山支所産業建設課(事務局：大澤)
TEL 0771-68-0043 FAX 0771-75-0801

神戸西有機農業推進協議会（兵庫県）

都市型有機農業を推進

①取り組みの体制

兵庫県・神戸市・JA兵庫六甲・生産者が連携し、都市型有機農業を推進する

②取り組みの主な内容

- 都市には潜在的販売先が多いことから、新規有機農業者の育成を図る
- 品質・収量の向上に向けて、土壌分析による施肥設計勉強会の開催、有機農業者間の情報交換会の実施
- 経営効率化を図るための調査や意見交換、有機農産物のPRや販路拡大に向けた交流会の実施

③生産概要（平成22年度12月末）

- 農業生産物の内訳
有機野菜圃場10.4ha(コマツナ、ハウレンソウなど)
(対前期比+0.2ha)
うち有機JAS認定8.7ha(対前期比+0.1ha)
- 協議会の農業者数
現在17戸(目標24戸)(対前期比+0戸)
うち有機JAS認定者13戸(対前期比+0戸)
- 協議会の売上
74百万円(対前期比▲9百万円)
- 農産物の主な取引先
都市生活生協、菜の花の会、コープ(フードプラン)、宅配直売所(六甲のめぐみ) ほか

④写真、絵、グラフ等プレゼン



市内小学校と連携した食農教育への取り組み



有機農業を志す人を応援します



有機農産物が身近に購入できるように、有機農産物取扱店の拡大につとめています



安定生産するために、有機農業技術の実証を実施



消費者と生産者の交流活動を実施

⑤協議会代表の一言

協議会では野菜を中心とした有機農業を実施しています。農村とニュータウンが混在した地域性を生かして、消費者交流や取れたて新鮮の農作物をより多くの市民に供給できるよう活動を行い、有機農業の啓発につとめていきたい。

⑥連絡先:

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1
神戸市役所 産業振興局 農水産課
農産園芸係 檜垣
Tel: 078-322-5355 Fax: 078-322-6076

コウノトリ共生農業推進協議会（兵庫県）

コウノトリ悠然と舞うふるさと 豊岡市

① 取り組みの体制

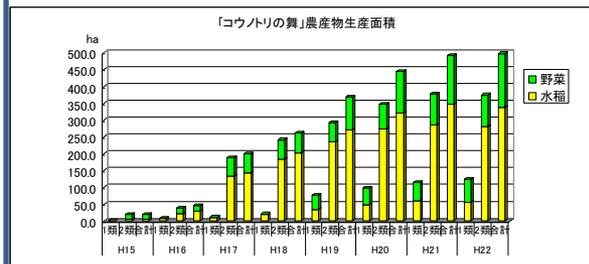
行政、JA、生産者、流通業者、消費者が連携し、コウノトリ野生復帰の取組みの一環として推進している「豊岡型環境創造型農業」の普及、拡大、定着を図るとともに、有機農業への段階的ステップアップを目指す。

② 取り組みの主な内容

- ・有機農業への参入希望者に対する相談、講演会や研修会の開催等による就農支援
- ・農産物認証制度事業の実施（「コウノトリの舞」ブランド）
- ・実証ほの設置、土壌分析、適正施肥指導、残留農薬検査の実施
- ・学校給食への認定農産物の供給
- ・認定農産物を使用した料理教室の開催
- ・田んぼの生きもの調査・農業体験の実施
- ・生産者による店頭販売の実施



④ 写真、絵、グラフ等プレゼン資料



③ 生産概要 (H22年12月末)

- 農業生産物の内訳
 - 米 64.6ha (対前期比▲1.7ha)
 - うち有機JAS栽培 6.3ha (対前年比▲0.2ha)
 - 野菜 4.2ha (対前期比▲0.2ha)
 - うち有機JAS栽培 2.0ha (対前期比▲0.1ha)
 - 大豆・小麦 7.4ha (対前期比+4.2ha)
 - うち有機JAS栽培 1.6ha (対前期比±0ha)
 - その他(そば等) 61.6ha (対前期比+10.9ha)
 - うち有機JAS栽培 0.1ha (対前期比±0ha)
- 協議会の農業者数
 - 179人 (対前期比+1人) うち有機JAS農業者 42人 (対前年比±0人)
- 協議会の売上げ
 - 92,050千円 (対前期比▲7,950千円)
 - うち有機JAS分 12,448千円 (対前期比▲1,276千円)
- 農産物の主な取引先
 - JA、豊岡中央青果、スーパー、直売所、大型量販店、百貨店 ほか



⑤ 協議会代表の一言

豊岡市では、「コウノトリも住める豊かなまちをつくる」をキーワードに地域に根ざしたまちづくりが進められています。

コウノトリを再び暮らしの中に迎えるために進めてきた多様な生きものを育む水田づくりや、化学肥料・農薬に頼らない米づくりの取り組みが、安全・安心な農作物づくりへと展開し、「コウノトリ育む農法」として、農業者だけではなく、消費者の理解と注目を集めるようになりました。本協議会では、そうした「豊岡型環境創造型農業」の推進を進めています。

是非、「コウノトリ悠然と舞うふるさと」で生産された安全・安心な農産物をお試しください。

⑥ 連絡先: 〒668-0045 兵庫県豊岡市城南町23-6

豊岡市役所 コウノトリ共生部農林水産課 環境農業推進係内
TEL 0796-23-1127 FAX 0796-24-7801 担当: 谷垣

丹波市有機の里づくり推進協議会（兵庫県）

大手百貨店・大手通販と取引

①取り組みの体制 有機農業を目指す生産者を幅広く募り「丹波市有機農業研究会」を設立、行政、JAと連携し、有機農業生産者・農産物生産の拡大を図る。

②取り組みの主な内容

- ・土壌分析に基づく適正施肥の技術講習会の実施
各農家が、質の高い有機農産物を生産することにより、農産物の付加価値を高め、消費者等の信頼を確立する。
- ・新規参入者支援
行政の支援メニュー、先輩農業者との連携体制を確立し、毎年2名の新規就農者を獲得する。
- ・消費者交流とファーマーズマーケットの推進
現地での援農ツアー、有機農業体験の実施

③生産概要（H22年12月末）

○農業生産の概要：

米3030a（対前期比 +60a）

【うち有機栽培1816a（対前期比-4a）】

野菜418a（対前期比+11a）

【うち有機栽培1130a（対前期比+30a）】

（葉物類全般、玉ねぎ、ごぼう、とうもろこし、トマト）

果樹120a（対前期比0）

【うち有機栽培43a（対前期比0）】（ブルーベリー他）

その他791a（対前期比+5a）【うち有機栽培324a（対前期比+10a）】

○協議会の売り上げ

68,148,500円（対前期比+7,830,500円）

目標（27年度）76,983,000円

○協議会の農業者数

現在 有機JAS認定農家 14戸（対前期比-1）

目標（平成23年度）2戸

○農産物の主な取引先

大手百貨店・大手通販業者・消費者団体・
有機野菜専門取り扱い業者・宅配



⑤協議会代表の一言

有機農業に関しては、歴史の長い地域ですが、中山間地域であるため、各農家の耕作規模も少ないです。しかし、近年は、若者も多く就農し、就農した若者が次の若者を指導するといった仕組みも出来つつあります。今後は、土壌分析に基づく技術を向上させ、よりよい生産物を今以上に供給できる体制をとり、有機農産物の生産地として、消費者の方の信頼を勝ち得たいと考えています

⑥連絡先：事務局

丹波市役所 農業振興課

電話 0795-74-1465

小野有機農業推進協議会（兵庫県）

若手を育成する協議会

①取り組みの体制

小野市地域振興部産業課、加西農業改良普及センター、小野有機農耕研究会、産直マルシェはっばやが連携・協力のもと、稲作や野菜作の有機農業等を推進

②取り組みの主な内容

- 販売企画力強化
 - ・生産者への意識調査とセミナーの開催
 - ・生産者の有機農業等意識調査
 - ・調査に基づく課題対策のセミナー
情報誌の発行及びイベント開催
 - ・小野有機農業推進協議会だよりの発行
 - ・有機農業推進の啓発イベントの開催実証圃場における技術講習会の開催
- 販売企画力強化
 - ・地域内幼稚園への調査、飲食店への啓発活動
- 生産技術力強化
 - ・生産技術講習会及び先進地視察
- 人材育成力強化
 - ・リーダー研修 先進地研修及び講習会
 - ・就農プログラムの支援

③生産概要（H22年12月末）

- 農業生産物の内訳
 - ◆米 1.7ha(対前期比 +0.37ha)
 - うち有機JAS栽培0.17ha(c+0.07ha)
- 協議会の農業者数
 - ◆現在 18人 (対前期比 +3人)
 - うち有機JAS栽培3人 (対前期比 +1人)
- 協議会の売上
 - ◆現在 6,104千円 (対前期比 +3,014千円)
- 農産物の主な取引先
 - ◆産直マルシェはっばや



⑤協議会代表の一言

小野有機農業推進協議会は、1984年に設立された、小野有機農耕研究会のメンバーを中心に有機農業に長年取り組んできた経験、手法に加えて、新たに有機農業の拡大の活動を進める目的で若手を中心に設立されました。

2年目に入り、より生産技術の向上、有機農産物の販路拡大に力を入れていき、より品質の高い、美味しい有機農産物を生産販売していきたいと考えています。

「産直マルシェはっばや」での販売により、播磨地域の有機農産物の美味しさ、品質が地域において認知されつつある現在、有機農業、有機農家の現状をより広く知ってもらえる活動を協議会の取り組みとしたいです。

⑥連絡先

小野市地域振興部産業課長(課長:市橋)

TEL 0794-63-1928

FAX 0794-63-2614

小野有機農業推進協議会事務局:産直マルシェはっばや内(加古)

TEL & FAX 078-594-8841

宇陀市有機農業推進協議会（奈良県）

担い手の育成と地域有機質資源のリサイクル

①取り組みの体制

奈良県、宇陀市、農業協同組合及び宇陀市有機農業推進協議会と連携し、有機農業の担い手育成と地域有機質資源のリサイクルを推進。

②取り組みの主な内容

- ・担い手の育成
協議会員自らが、全国からの研修生を受入れ、地元での有機農業参加者を育成、増加。
- ・地域内での有機質資源の循環
宇陀市シルバー人材センターとの連携により、植木の剪定枝等、地域から出る有機物を利用して良質な堆肥を製造。循環型社会形成の発信。

③生産概要（H22年12月末）

- 農業生産物の内訳
 - 野菜（ホウレンソウ・コマツナ・ミズナ等）
9.3ha(対前年比+0.5ha)
 - うち有機JAS栽培7.3ha
 - 果樹（ブルーベリー） 0.2ha
 - うち有機JAS栽培0.2ha
- 協議会の農業者数
現在 15人(対前年比+2人) 目標 20人
うち有機JAS農業者10名(対前年比+1人)
- 協議会の売上
現在 172,000千円(対前年比4,900千円増)
うち有機JAS分160,000千円(対前年比4,000千円増)
目標 210,000千円
- 農産物の主な取引先・・・大手スーパー、百貨店等

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



有機農業推進モデルタウン
(駅前モニュメントで有機の啓発)

有機堆肥製造
(循環型社会形成の発信)



⑤協議会代表の一言

奈良県内でも有機JAS認証者が多い宇陀市。
宇陀市は、気候にも恵まれ、昼夜の温度差が大きい高原地帯でホウレンソウ・コマツナ・ミズナなど軟弱野菜の産地。
現在、有機農産物による、宇陀市の安全・安心野菜のブランド商品化を進めるとともに、「食育&食りと安全・安心農産物の循環型社会形成」を模索中。
※食リ(食品リサイクル)

⑥連絡先：宇陀市役所農林課 (0745-82-3679)
e-mail : nourin@city.uda.lg.jp



全国の有機農業の匠から技術を学ぶ

①取り組みの体制

環境保全に力を入れている那賀地方の生産者団体が中心となり、農協、NPO法人、市、県からなる協議会を設立。

技術研修会や消費者交流会により有機農業の環を広げ、地域を活性化していく。

②取り組みの主な内容

- ・新規就農者及び新規参入者への支援
先輩農家への研修制度による技術の習得
新規参入者を対象とした研修会による知識の習得
- ・地産地消で消費者と生産者をつなぐ
収穫体験、学校給食への供給など、消費者との交流
- ・匠の技を学ぶ
全国の有機農業の匠から技術を学ぶ研修会を実施
- ・有機農産物の生産・販売実証
加工品開発、新規品目の開拓

③生産概要（H22年12月末）

○ 農業生産物の内訳

有機栽培水稻	246a(対前期比+163a)
うちJAS栽培	172a(対前期比+89a)
有機野菜	550a(対前期比+240a)
うちJAS栽培	417a(対前期比+50a)
有機果樹	889a(対前期比+82a)
うちJAS栽培	889a(対前期比+82a)

○ 有機農業者数

37人(対前期比+9人)
うち有機JAS認定農家27人(対前期対比+4人)

○ 協議会の売上

64,991千円(対前期比△17,777千円)
うち有機JAS分63,961千円(対前期比△3,512千円)

○ 農産物の主な取引先

有機農産物取り扱い専門業者、農協、宅配、...

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



有機タマネギ技術実証ほ



有機水稻栽培研修会



加工品開発

有機トマトのパウンドケーキ

有機キウイフルーツのクッキー

那賀地方
有機農業推進協議会
の取り組み



消費者交流

⑤協議会代表の一言

多くの方々が昨年度の私達の活動をきっかけに、有機農業にチャレンジされています！

収穫体験に参加された消費者は「今まで食べたことがないほどおいしい！！」と感激されます！

私達の活動から地域が活性化するよう、今後も取り組んでいきます！

⑥連絡先：〒649-6602和歌山県紀の川市平野927番地

TEL 0736-75-5036 FAX 0736-75-5410

紀ノ川農業協同組合 担当者：西谷



田辺市有機農業推進協議会（和歌山県）

果樹を中心とした有機農業

①取り組みの体制

JA紀南と連携し、有機農業の推進に取り組んでいる生産者団体が中心となり、和歌山県・田辺市・JAと協議会を設立。消費地の消費者団体等との交流を行い市の有機農産物の認知度をあげると共に、技術研修会を行い地域においても有機農業を推進していく。

②取り組みの主な内容

・販売力の強化

市場調査、卸売市場、生協、提携団体、食品会社、消費者等との交流を通じて、出荷・販売先の開拓、産地化・ブランド化を進める。

・担い手の育成

講演会を開催し、地域での有機農業の振興を図り、また技術研修会を開催し新規参入者の育成を行う。

・地域の有機物資源を活用した良質な堆肥の生産と施用

③生産概要（H22年12月末）

○ 農業生産物の内訳

果樹 梅10.6ha、かんきつ1.5ha（対前期比+7.85ha）
（うち有機JAS栽培 梅10.6ha、かんきつ1.5ha、対前期比+7.85ha）

○ 協議会の農業者数

現在 12人（対前期比 +2人）

うち有機JAS農業者12人（対前期比 +2人）

○ 協議会の売上

現在 25,463千円（対前期比 +2,503千円）

うち有機JAS分25,463千円（対前期比 +2,503千円）

○ 農産物の主な売り先

現在は、提携団体、生協、食品会社と主に取引を行っているが、今後は、有機農産物取り扱い専門業者、産直等にも販路を拡大する予定。

④写真、絵、グラフ等のプレゼン資料

田辺市有機農業フォーラム

有機農業の現状、技術、経営について

日時
平成23年1月25日（火）午後1時30分～

場所
田辺市高嶺三丁目22番19号
JA紀南ふれあいセンター2F会議室

内容

●講演 「有機農業の体験談」
講師 土佐自然塾塾長 山下 一穂

～山下一穂氏、プロフィール～
高知県橋北の地で「自然農法」と呼ぶ有機農業を実践、土づくりに従事。有機の学校「土佐自然塾」で人材育成にあたりています。

●講演 「県下の有機農業の現状」
講師 NPO法人和歌山有機認証協会事務局長 重栢 陸

～重栢 陸氏、プロフィール～
ユース和歌山有機塾塾長、NPO法人わかやま環境ネットワーク代表、NPO法人和歌山有機認証協会事務局長、地球環境美化センター長等を兼任し、地球環境問題に積極的に取り組むとともに、新たに、産消連携を目指した「ふくと」を立ち上げ、「産と農」関係に注力しています。

主催 田辺市有機農業推進協議会、事務局 田辺市農業振興課協議室 06-9959



有機栽培育苗用圃場を
設置

第一回有機農業フォーラムの開催

⑤協議会代表の一言

協議会では果樹を中心とした有機農業を実施しています。今後は栽培技術向上と販路先を確保しながら、有機農業の新規参入者の育成と生産拡大を行いたい。

⑥連絡先:

〒646-8545 和歌山県田辺市新屋敷町1番地
電話番号0739-26-9959、FAX番号0739-22-9908
田辺市役所梅振興室 担当者:愛須

総社市有機農業推進協議会（岡山県）

誰でも取り組める有機農業をめざす

① 取り組みの体制

有機JAS農家を中心に、行政・JA・農業普及指導センターと連携・協力し「誰もが容易に有機農業に取り組むことができる」ことを目指し取り組んでいる。

② 取り組みの主な内容

- ・太陽熱を利用した除草など新たな技術の導入
太陽熱を利用した透明マルチでの除草を導入することで作付面積の拡大を図る。
- ・特色ある販売体制の構築
品目を絞り大量生産を図る少品目多量生産に転換し、大都市圏への販売を積極的に図る。
- ・学校給食への有機野菜等の供給
現在有機米、有機ニンジンを供給している。さらに品目と生産量を増やしたい。H23年度から学校給食食材の地産地消が開始された。
- ・食育の実施
ジャガイモ、スイートコーンの有機栽培体験を実施し、消費者との交流で食育に取り組んでいる。

③ 農業生産の概要

○ 生産物の内訳

- 米 6ha(うち有機JAS 6ha)
- 野菜 6.6ha(うち有機JAS 6.6haでニンジンが98%を占める)
- 果樹(桃) 0.1ha(うち有機JAS 0.1ha)
- その他 2ha(うち有機JAS 2ha)

○ 協議会の有機JAS農業者数

現在 9人 目標(25年度) 12人

○ 協議会の売上

現在 44.5百円 目標(25年度) 54百円

○ 農産物の主な売り先

有機農産物取り扱い専門業者、岡山市中央市場、総社市学校給食、加工業者、地元直売所、ほか



主力の生産物「有機ニンジン」収穫出荷の様子 年間出荷量140t 程度



もう一つの主力「有機米」学校給食と加工用が中心 年間出荷量26t 程度

生産物は ほぼ全量
有機JAS認定

⑤ 協議会代表の一言

有機農業推進法の理念をもとに、農業者の誰もが有機農業に取り組むことができ、消費者のだれもが有機農産物を容易に手に入れることができることを目指しています。

この総社地域から「人にも自然にもやさしい有機農業」がますます広がるように活動します。

連絡先：〒719-1192 岡山県総社市中央1丁目1番1号

TEL(0866)92-8271 FAX92-8386

E-mail nourin@city.soja.okayama.jp

担 当 事務局 総社市役所産業部農林課

徳島有機農業推進協議会（徳島県）

1000人の有機農業者を目標に

①取り組みの体制

小松島市と徳島県・小松島市市長を会長とする有機農業者と環境保全型農業を行う農業者とJA東とくしま等で構成される小松島市生物多様性農業推進協議会・技術指導と事務局機能を担うNPO法人与くしま有機農業サポートセンター・販売促進を担うコープ自然派事業連合等で協議会を設立

②取り組みの主な内容

- ・有機農産物の産地づくり
地域を満たし、大都市に積極的に供給する「地足都給」を目指している
- ・有機農業技術者の育成・有機農業の担い手づくり
(有機農業の普及の拠点として有機農業サポートセンターを設置)
- ・土壌分析と施肥設計による科学的な有機農業を目指すとともに、田んぼの生きもの調査による有機農業が地域の生態系を守っていることを実証を行い、硝酸態窒素濃度の低い野菜づくりを目指す。
- ・地域内の有機物資源の有機農業への積極的活用の研究
- ・堆肥の改良と有機物資源の利用方法の普及啓発
- ・販売促進のために販売会社「阿波有機」を設立
- ・有機農業の普及啓発のための消費者と農業者の交流事業として、田んぼの学校・家庭菜園講座・たべる交流会オーガニックランチを開催

③生産概要（有機栽培圃場面積 8.75ha）

- 農業生産物の内訳
米・野菜あわせて
現在（平成21年度）16戸（8.75ha）→目標（平成27年）32戸（13ha）
- 協議会の農業者数
現在 50人→目標（平成27年）100人
- 協議会の売上
昨年21年度の産出額 68.759 t 23,351,807円
- 農産物の主な取引先
生活協同組合連合会コープ自然派事業連合
株式会社キョーエイ・光食品・徳島バナナ・阿波有機等

④ツルをよぶお米 PROJECT



●お米のブランド化によって農業を中心とした地域の活性化を推進していきます。

●日本一の産地となった菌床シイタケの廃菌床の堆肥と日本一となった地鶏の鶏糞堆肥を使った地域循環のしくみづくり。

●技術者育成のための学習会を定期的に開催し技術力の向上を図る。

●田んぼの生きもの調査によって有機農業が地域の自然生態系を守っていることを消費者にアピール。

●有機稲作の推進によってナベツルが飛来するようになりました。

⑤協議会代表の一言

徳島に1000人の有機農業者を育てることを目標とし、有機農業を推進することで、地域経済の発展と自然循環機能の増進に貢献していきたい。

地域の未利用資源を活用して、高性能堆肥を開発し、これを利用して、有機農産物の本格生産・本格販売をすすめています。1000人の有機農業者を育成するための「有機農業サポートセンター」を建設し、有機農業を本格的に学びたいという方を、全国から募集し、人づくりもはじまりました。いよいよ地域の有機物資源を活用した本格的な有機農産物の産地づくりがはじまりました。（岸健二）

⑥連絡先 <http://www.komatushimayuuki.jp>

〒773-0018
徳島県小松島市櫛淵町字間町11-4 小松島有機農業サポートセンター内
TEL・FAX : 0885-37-2038 担当: 植木博道

木頭柚子有機農業推進協議会（徳島県）

柚子を核とした有機農業の推進

①取り組みの体制

NPO里業ランド木頭、地域住民セクター(株)きとうむら、那賀町との連携・協力のもと柚子栽培を核とした有機農業を推進

②取り組みの主な内容

- ・有機農業の参入希望者に対する指導・助言
22年度事業においては、新規参入者が3名増え91名。
- ・実証ほ場の設置
実証ほ場における農産物が生協にて通常価格の約2倍で販売。
- ・研修会および勉強会の開催
年間6回の勉強会にのべ400人以上の生産者の参加。
- ・有機農業により生産される農産物の流通・販売の促進活動
生協グループ、自然食流通、自然食宅配グループとの交流により、販路が拡大。
- ・消費者等に対する普及啓発、有機農業者と消費者の交流活動
大阪の地域イベントで当会の活動を報告。

③生産概要（H22年12月末）

- 農業生産物の内訳
柚子60ha
うち有機栽培に順ずる農地25ha(対前期比 +3ha)
うち有機JAS栽培は0
生産量:100t(対前期比 +1t)
- 協議会の農業者数
91人(対前期比 +3人)
うち有機JAS農家は0
- 協議会参加農家の売上
1600万円（対前期比 +115万円）
うち有機JAS分は0

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料

●有機栽培勉強会



●消費者との交流会



●オーガニックエキスポ出展



●実証ほ場での勉強会



⑤協議会代表の一言

徳島県の県南に位置する那賀郡那賀町の山間部である木頭地域は、全国的に木頭柚子として知られた地域ですが、山の斜面に位置する農地が多く、過疎化と高齢化によって放置畑が増加しています。また、これまでの柚子販路においては、厳しい選果基準によって農薬や化学肥料なくして栽培方針が立てられないという課題もあり、農家の健康と地域の環境において大きな負荷がかかっていた。そんな中で、近年農薬の問題に消費者の意識が高まり、特に果皮を利用する柚子においては安全性を求める声が強くなり、有機栽培の必要性を痛感しています。さらに、単に柚子という農産物を出荷するだけでなく、地域企業との連携の中で付加価値の高い加工製品を製造販売することで、農産物の安定需要と雇用の創出につなげ、地域活性化に結び付けて行きたいと考えています。

連絡先：木頭柚子有機農業推進協議会
771-6402 徳島県那賀郡那賀町木頭出原字ヨコマチ23-2
0884-68-2285 担当：日野 E-mail: npo@kitomura.jp

今治市有機農業推進協議会（愛媛県）

有機農業を柱にした食と農のまちづくりをめざして

①取り組みの体制

地域の農林水産業の活性化に結びつけるため、今治市と連携し、地産地消・食育・有機農業を一体的に推進

②取り組みの主な内容

○営農の柱を有機農業へシフトするために

指導的立場にある者の有機農業の知識や技術の取得を推進

○有機農業への参入を容易にするために

「有機農業講座」で技術普及を行うとともに、JAに有機農業部会を設立し、新たな生産者を掘り起こすことでスーパーや直売所に「有機コーナー」開設を目指す。

○子どもたちに安全な農産物を安定的に供給するために

校区内での有機農産物の生産拡大、流通システムの構築を行い、学校給食での有機農産物の活用を立花地区以外に広げることを目指す。

③生産概要

○農業生産物の内訳

米 1,490ha（うち有機栽培 5.4ha 対前期比+0.5ha）

野菜 483ha（うち有機栽培 5.8ha 対前期比+0.7ha）
（だいこん、じゃがいも、たまねぎなど）

果樹 2,655ha（うち有機栽培18.0ha 対前期比+0.3ha）
（かんきつ類ほか）

○協議会の農業者数

現在35名 対前期比+2名

（うち有機JAS取得者12戸 対前期比+1戸）

○主な販売額

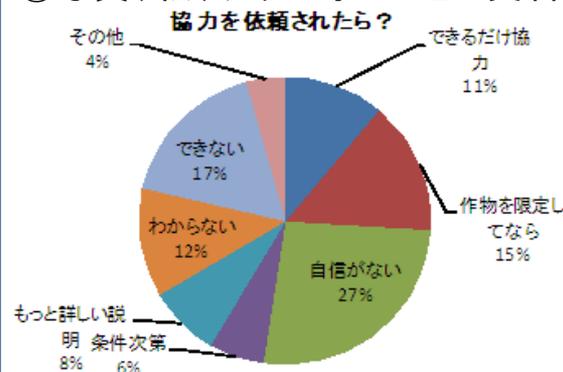
学校給食 336万円（対前期比-89万円）

生協 4,103万円（対前期比+1,059万円）

○農産物の主な取引先

愛媛有機農産生活協同組合、学校給食、スーパー
レストラン、宅配 ほか

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



直売所会員の中には、給食用に有機で野菜を生産してもよいと思っている人が3割程度いることがわかった。

有効と思われる施策	件数
指導の徹底	147
価格補償	127
技術の確立	103
普及啓発	85

有機野菜を生産するための条件や有効と思われる施策なども見えてきたため、それらを踏まえ、グループづくりを行い、給食への供給拡大を目指す。

⑤協議会代表の一言

今治市では、「食料の安全性と安定供給体制を確立する都市宣言」や「今治市食と農のまちづくり条例」の制定により、有機農業の振興などに取り組んでいます。

また、立花地区では、昭和58年から有機農産物の学校給食への供給を行っており、子どもたちをはじめ市民の有機農業への理解や関心も進んでいます。

これらは市民の取り組みとして発展してきており、協議会では積極的に協力していくとともに、市内全域に広げていくために様々な取り組みを行っています。

ぜひ有機農産物を購入することで、今治市の有機農業を応援してください。

⑥連絡先：〒794-8511 愛媛県今治市別宮町1-4-1

（事務局）今治市農林振興課内 e-mail: nourin@imabari-city.jp

TEL:0898-36-1542 FAX:0898-32-5266

西予市有機農業推進協議会（愛媛県）

地域特性を活かして様々な有機農産物を栽培

①取り組みの体制

西予市・関係団体と連携・協力して有機農業を推進していくとともに、消費者の理解と関心を深め、相互理解の増進を図る。

②取り組みの主な内容

- ・有機栽培実証試験の実施
有機栽培での安定的な生産方法を確立するため、様々な実証試験を行う。
- ・耕畜連携による地域内での資源循環
西予市は中四国数々の畜産地帯であり、地元の豊富な良質堆肥を活用した有機農業を展開する。
- ・有機農産物の販売促進活動、消費者との交流活動
有機栽培農家の所得向上と経営安定のために販路拡大を図る。
また、消費者の有機農業に対する理解と関心を深める交流を行う。
- ・食育と地産地消、学校給食への有機農産物供給
食育と地産地消に力を入れるとともに、学校給食へ供給を図る。

③生産概要

- 農業生産物の内訳
 - 米 1,570ha（うち有機栽培 12.5ha）
 - 野菜 525ha（うち有機栽培 6.9ha）
（ケール）
 - 果樹 1,590ha（うち有機栽培 66.0ha）
（温州みかん、いよかん、ポンカン、ユズ等）
- 協議会の農業者数
現在 127人 目標(平成27年度) 140人
- 協議会構成団体・農家の売上
現在 174,830千円 目標(平成27年度) 220,000千円
- 農産物の主な取引先
各生協(東京・高知・愛媛)、農協、学校、青汁工場、個人商店、会員直接販売 ほか

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料

「愛媛といえば、みかん!!」
無茶々園では有機栽培で育てたみかんをひとつひとつ大切に収穫します。



水稲布マルチ直播栽培では、慣行栽培の田植えと違い、種もみを封入した布マルチを田んぼに広げてから灌水します。

⑤協議会代表の一言

西予市は愛媛県南西部に位置し、海拔0mから四国カルストに至る1,400mまで、起伏に富んだ自然豊かな地域です。このような地域特性を生かし、柑橘、水稲、野菜といった様々な有機農産物を栽培しています。

今後も関係団体と連携・協力して環境にやさしい有機農業を推進するとともに、消費者ニーズにあった有機農産物を皆さまの元へお届けできるように努めていきます。

代表：三好幹二

⑥連絡先：〒797-8501 愛媛県西予市宇和町卯之町三丁目434番地1

TEL 0894-62-6409 FAX 0894-62-6340

E-mail: nougyou@city.seiyo.ehime.jp

担当部署：西予市役所 農業水産課

高知439国道有機協議会（高知県）

県内外の有志と協働した取組み

①取組みの体制

本山町と連携・協力のもと有機農業を推進するとともに消費者の理解と関心を深め、新しい需要を開拓することにより、販売企画力の強化につなげる。

②取組みの主な内容

- ・実証ほ場及び勉強会
有機農業生産技術を修得し所得、農業者を増やす。
- ・有機野菜フェアの開催
試食・即売会を実施し、啓発活動を通じ販売力を高める
- ・学校給食への提供
実証ほ場の生産物を学校給食等へ提供し、有機野菜のPRを行う。

③生産概要（H22年12月末）

- 農業生産物の内訳
畑 21ha うち有機栽培 2.2ha（対前期比0ha）
うち有機JAS栽培 0.1ha（対前期比+0.1ha）
- 協議会の有機農業者
6人（対前期比0人） うち有機農業JAS農業者1人
（対前期比+1人）
- 協議会の売上
17,915千円（対前期比 +2,439千円）
うち有機JAS分 500千円（対前期比+500千円）

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



実証ほ場



勉強会



保育給食へ有機野菜の提供



試食会

⑤協議会代表の一言

5町村の首長が理解を示し、県内外の有志と協働しているのが私たちの特徴です。有機野菜フェアの試食会には「最もおいしいイタリアン」と賞賛される山形のレストランのシェフを招聘して、当協議会のアドバイザーの無農薬有機野菜と勝負させています。昨年からはほ場を本山町にまとめました。

⑥連絡先：高知市はりまや町3-2-41

TEL 088-823-8441

高知ものべ川有機農業推進協議会（高知県）

中山間地域の小規模農家の有機農業を推進

取り組みの体制

香美市との連携・協力のもとで、中山間地域における小規模農家の有機農業を推進

取り組みの主な内容

・有機農業技術勉強会の開催

科学データを基にした有機栽培技術の習得

・栽培技術の実証

勉強会で得た知識を4ヶ所の実証ほで実践

・販路の開拓

有機農産物マッチングフェアへの出展

・消費者の有機農業への関心の啓発

イベントでの試食会やチラシの配布、学校給食への食材提供

○ 農業生産の概要

野菜1.92ha(うち有機栽培1.92ha)
(カボチャ、ブロッコリー、キャベツ)

○ 協議会の農業者数

現在 6人 目標(H27) 20人
※協議会の会員数としては48名

○ 協議会の売上

現在 2,900千円 目標(H27) 35,000千円

○ 農産物の主な売り先

地元スーパー、直売所など



勉強会



有機農産物マッチングフェア



土壌分析&施肥設計



実証ほ

⑤協議会代表の一言

中山間地域の小規模農家が多い当地域では、資材価格の高騰や農産物価格の低迷により、農家の生産意欲が減退し、担い手不足の減少から、耕作放棄地が著しく増加しています。

このため、有機農業による中山間地域の農業の活性化を目指し、個人の経験や勘に頼らない科学的データを用いた有機栽培技術を習得し、消費者に対して高品質な農産物を安定的に供給できる産地づくりを行っていきます。

連絡先: 〒781-4202 高知県香美市香北町蕨野159
TEL・FAX:0887-58-2224 (担当:山中 道博)
e-mail:kahoku159@ybb.ne.jp

四万十町有機農業推進協議会（高知県）

生産技術力の強化を核とした有機生姜のブランド化

①取り組みの体制

四万十町との連携・協力のもと有機生姜のブランド化を図り、有機農業の普及・推進

②取り組みの主な内容

- 生産技術力の強化
安心安全で美味しい生姜を消費者に届けるための、適切な肥培管理技術、種生姜の保存技術、連作を可能にする土づくりと雑草防除技術の実証を行う。
- 販売体制の構築
新たな流通の開拓及び四万十町産有機生姜のブランド化を図る。
- 新規就農者の受け入れ及び支援体制の構築
有機農業の理念や技術についての講習会を開催する。
- 行政・関係機関等との連携のもと、有機農業の普及・推進
四万十町との連携・協力のもと高品質有機生姜のブランド化を図り、有機農業の普及・推進を行う。

③ 農業生産の概要

- 生産物の内訳
米 973ha(うち有機栽培0, 5ha)
野菜 162ha(うち有機栽培9, 6ha)
(有機生姜、ナバナ、エンドウ、ニンニク、サラダゴボウ)
その他 30ha(うち有機栽培0ha)
- 協議会の農業者数
現在 12人 目標(27年度) 15人
- 協議会の売上
現在 39,600千円 目標(27年度) 47,500円
- 農産物の主な売り先
有機農産物取り扱い専門業者、ほか

④写真、絵、グラフ等プレゼン資料



出荷調整作業



安心安全な有機生姜をお届けします。

⑤協議会代表の一言

有機生姜のブランド化の為、消費者や流通事業者への周知に努め、販売額の向上に取り組む事とし、さらに栽培技術の向上に努め、有機生姜の産地化に向けた取り組みを推進していきます。

⑥連絡先：787-0020 高知県四万十市入田3313-2
TEL 0880(37)6174 FAX 0880(37)6175
E-mail: koaa2@cosmos.ocn.ne.jp 担当者名：宇和川

赤村有機農業推進協議会（福岡県）

地産地消型の有機農業を推進

①取り組みの体制

赤村・商工会・JA・地域農業改良普及センター・赤村特産物センターとの連携・協力のもとで赤村地域ブランド品づくりを企画し、地産地消型の有機農業等を推進。

②取り組みの主な内容

- 有機農業の実践講座・基調講演・推進講演・土壌診断の実施等により技術と知識の習得
- 水稲 紙マルチ・アイガモ・有機肥料の活用・油粕・醗酵鶏糞の利用
- 都市圏等の生協・赤村特産物センターによる有機農産物の販売促進
- 福岡市・北九州市の子供や家族との田んぼ等の生き物調査などによる消費者との交流活動の実施

③生産概要

○ 農業生産の概要

米 280ha（うち有機栽培 紙マルチ栽培 4.5a）
 アイガモ栽培 2.0a ・ 自然栽培ガンズメ使用）
 野菜 31ha（うち有機栽培 セロリー 1.0a ニラ 0.2a
 小松菜・ほうれん草・春菊・レタス・
 サニーレタス 2.5a
 里芋 1.0a

- 協議会の農業者数 現在 25人 目標 50人
- 協議会の売り上げ 現在 1,227万円 目標 2,100万円
- 農産物の主な売り先 赤村特産物センター・大手スーパー生協

④赤村における有機農業の取組



⑤協議会代表の一言

【赤村の有機農業に対するスローガン】

- 国や各機関と連携を図り、有機農業の技術の確立を目指します。
- 有機農業に取り組む人達とのネットワークを構築します。
- 有機農業を目指す人達に情報や技術が提供でき、研修ができる有機農業支援センターをつくります。
- 有機農業を通じて、赤村の地域興し、地域づくりの一助とします。
- 有機農業を軸として、若者が農業に未来を描けるビジネスモデルを展開します。

⑥連絡先 〒824-0432

福岡県田川郡赤村大字内田1188
 赤村役場 産業建設課産業振興係
 Tel.0947-62-3000 FAX 0947-62-3007
 aka-s.sansin@mb.fcom.ne.jp
 課長補佐 園田 茂

南島原市有機農業推進協議会（長崎県）

長崎県内で唯一の協議会

①取り組みの体制

協議会を構成する7生産団体及び1生活協同組合と長崎県並びに南島原市との連携・協力のもと、有機農業の普及・拡大を図っている

②取り組みの主な内容

- ・有機農業実践講座、有機JAS制度学習会の開催
⇒ 有機農業者の知識の向上、新規取組者の育成
- ・実証圃場の設置、土壌分析の実施
⇒ 生産技術の向上・確立
- ・消費者との交流会の開催、有機農産物の出展
⇒ 消費者等に対する有機農業への理解促進と普及啓発
- ・協議会のパンフレットの作成・配布
⇒ 一般市民等に対する協議会活動のPR

③生産概要

○ 南島原市の農業生産物の内訳

- ・有機農産物栽培面積 7,772a

米、麦、大豆等穀類	うち有機JAS認証栽培	1,782a
野菜(じゃがいも、たまねぎ他)	うち有機JAS認証栽培	5,901a
果樹(みかん)	うち有機JAS認証栽培	89a
- ・有機農産物収穫量 1,999t

有機JAS認証農産物収穫量	1,093t
---------------	--------

○ 協議会の構成員

現在 生産団体: 7団体(220名)
うち有機JAS認定者数 51名

○ 有機農産物の産出額

300,541千円(推定)

○ 有機農産物の主な取引先

生協など

④ 活動風景



⑤協議会代表の一言

本協議会は、自然環境と調和し、安全で安心な食べ物を生産する有機農業を推進し、各関係団体・機関が連携・協力し、地域農業の活性化に寄与することを目的として、平成20年度に設立された、長崎県内でも唯一の有機農業推進のための協議会です

農業が基幹産業である本市において有機農業がその一角を担えるよう普及・推進に努め、名実ともに地域農業のモデルとなることを目指したいと思っております。

⑥連絡先: ☎859-2202

長崎県南島原市有家町山川58番地
TEL: 050-3381-5060 FAX: 0957-82-0217
担当: 農林課 近藤

「給食畑の野菜」有機農業推進協議会（大分県）

「うすき夢堆肥」で目指すほんまもん

①取り組みの体制

臼杵市との連携・協力のもとで学校給食・直販所を介した地産地消型の有機農業を推進

②生産概要

○農業生産物の内容

- ・給食センター使用有機野菜1,800kg（全体75 t）
- ・「給食畑の野菜」有機述べ栽培面積400 a

○農業者数

- ・「給食畑の野菜」生産者50戸の内
有機農業取組農家数12戸（平成24年度目標20戸）

○「給食畑の野菜」有機農家の売上

- ・有機野菜取扱額600万円（平成24年度目標800万）

○農産物の主な取引先

- ・地元直販所、市給食センター、市内料飲店等

③取り組みの主な内容

- 学校給食への有機農産物の供給
 - ・給食センターにおける使用野菜の有機野菜への利用促進
- 直販所における有機農産物の販売促進
 - ・市民の直販所利用率向上
 - ・有機農業・有機農産物の利用促進
- 生産者と消費者との交流イベント開催
 - ・収穫体験、料理教室、生産者の学校訪問
 - ・旬食フェスタ、食と農をつなぐフォーラムなどの開催
- 有機栽培農家の推進
 - ・「うすき夢堆肥」による本来の土づくりの推進
 - ・有機農業をはじめとする環境保全型農業の推進
 - ・有機栽培農家の増加
 - ・直販所出荷者の有機栽培への取組推進

⑤協議会代表の一言

臼杵市では「うすき夢堆肥」による“本来の土づくり”に力を入れてほんまもんの農産物の生産の拡大を目指しています。

美味しく、栄養のある有機野菜を臼杵市民に食べてもらうため、そして臼杵市の自然環境のことを考えた有機農業を続けていくためにがんばります！

④取組みの様子



有機にんじん収穫体験



⑥連絡先：臼杵市農林振興課有機農業推進室

〒875-0201

臼杵市野津町大字野津市326-1

TEL：0974-32-2220 担当：佐藤

人吉市有機農業推進協議会（熊本県）

「医食同源ひとよし米」で健康・笑顔のまちづくり

① 取り組みの体制

協議会を構成する人吉市地産地消推進協議会（給食センター納入農家団体、JA、教育委員会、市など）、ひとよしアイガモ農法研究会、人吉有機の会の連携の下、米を中心とした有機農業の普及・拡大を図っている。

② 取り組みの主な内容

- 有機農業参入希望者に対する指導・助言
高品質、多収穫生産技術習得のための各種研修会の開催
- 有機農業技術確立のための実証ほの設置
ミネラル資材等を活用した有機農業技術（ナサラ農法）の実証
- 有機農産物の流通・販売活動の促進
市内消費者との提携による流通促進
地産他商による販路拡大、ホームページの開設

③ 農業生産の概要

○ 農産物の内訳

米 656ha うち有機農業による米3.6ha(内有機JAS 2.85ha)

野菜145ha うち 同上 トウガラシ2.3ha 馬鈴薯0.3ha

○ 協議会の農業者数

現在の有機農業者数 49戸 目標(25年度) 60戸

○ 協議会の売上

現在の販売額 11,914千円 目標(25年度) 16,800千円

○ 農産物の主な売り先

消費者オーナー会員、直販店、市給食センターほか

④ 医食同源ひとよし米生産部会



⑤ 協議会代表の一言

本市では、市民みんなが健康で笑顔あふれるまちづくり「元気、長生き、ぽっくり」GNP運動を展開しています。その一環として、当協議会では、豊富な気象条件に恵まれた本市の安全・安心でおいしい有機農産物の生産・販売を推進します。

また、地産地消を基本にしつつ、地産他商にも積極的に取りみながら農業者の所得向上を目指します。

⑥ 連絡先

熊本県人吉市麓町16番地 人吉市役所農業振興課
Tel 0966-22-2111 fax0966-22-7047
担当： 荒毛・豊永

宇城市有機農業推進協議会（熊本県）

熊本県内を始め全国各地に供給

①取り組みの体制

宇城市、宇城市有機農業研究会、宇城地域振興局農業普及・振興課、JA熊本宇城の4者により協議会を構成。
生産技術力を強化するとともに、一般消費者に対し、有機農業の理解促進のための情報発信、有機農産物の消費拡大を推進。

②取り組みの主な内容

- 販売企画力の強化
有機フェスタへの参加、消費者との交流、販売促進への参加、有機農産物フェアの開催、HP、パンフレット等による情報発信
- 生産技術力の強化
土壌分析、実証ほの設置、省力化技術の研究
- 人材育成力の強化
先進地視察や有機JAS講習会の開催等の開催

③生産概要

- 農業生産物の内訳
米 9.6ha(有機JAS又は有機JASと同等の取り組み)
野菜8.4ha(トマト、玉ねぎ、にんにく、里芋、生姜など)
果樹 4.8ha(ポンカン、タンカン、栗など)
- 協議会の農業者数
現在19戸、目標(平成27年度)30戸
- 農業産出額
現在56百万円、目標(平成27年度)80百万円
- 農産物の主な取引先
熊本県始め全国各地の生協、有機農産物会員制宅配団体、JA直営店舗、学校給食等

④有機農業への理解促進活動(親子田植え交流会)



⑤協議会代表の一言

有機農業への新規参入をめざす動きは少しずつ見えてきています。これからの課題は、消費者の理解者、支持者をどのように増やしていくか、ということだと考えます。

地域の大切な生活環境を健全に守り、次世代にバトンタッチしていくためにも有機農業を支えていくことが重要かつ、緊急のテーマであることを更に広く地域の生活者の皆さんに訴えていきたい。

⑥連絡先: 宇城市有機農業推進協議会

担当: 森田

〒869-0616 熊本県宇城市小川町北海東1396-1

Tel 0964-43-0234 Fax 43-3566

Mail

綾町有機農業推進会議（宮崎県）

『自然生態系農業のまち』

①取り組みの体制

綾町憲章「自然生態系を生かし、育てる町にしよう」に基づいた農産物の安全性と自然環境に調和した農業を推進しています。町、農協などで組織する「有機農業推進会議」で事業計画が決定されます。有機農業開発センター、有機農業実践振興会で生産技術の指導及び有機農業の普及推進を行い、有機農業実践振興支部、農協の各生産組織で有機農業の振興を行っています。

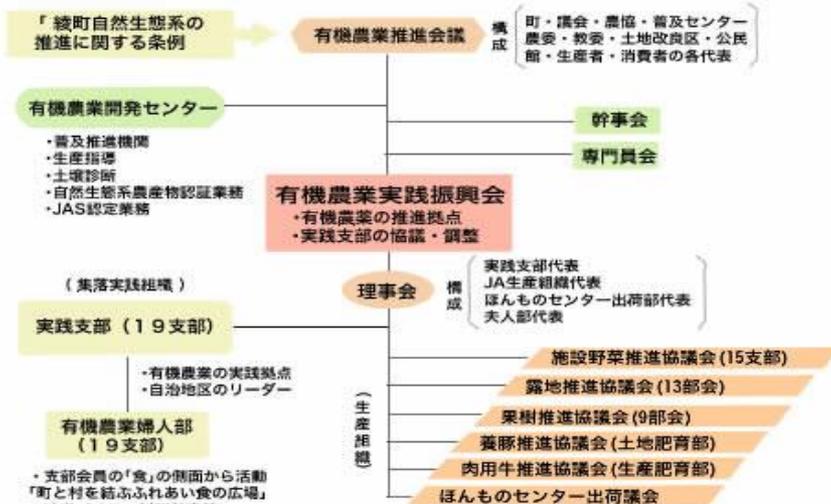
②取り組みの主な内容

- ・消費者の信頼に応える有機農産物の生産拡大
- ・土壌診断に基づく適切な施肥による栽培技術の向上
- ・農業経営安定のための生産体制の確立と新品種の導入
- ・都市との共生交流による流通・販売の促進
- ・新規就農者の育成と農業経営事業の確立
- ・有機農産物の地場消費拡大
- ・農畜産物総合価格安定制度の運用

③生産概要

- 農業生産物の内訳
 - 米 175.0ha(うち有機農産物 0.8ha)
 - 野菜 87.5ha(うち有機農産物 11.8ha)
- 自然生態系農業(有機農業を含む)に取り組む農業者数
現在387人
- 自然生態系農産物の販売額
野菜 305百万円
- 農産物の主な取引先
JA綾、有機農産物専門取扱業者、公共施設、直売所

④自然生態系農業推進体制の組織図



⑤協議会代表の一言

近年、農業を取り巻く環境は、輸入生産コストの上昇、農業従事者の高齢化に伴う担い手の減少等厳しい状況にあります。

このような中、綾町では、全国に先駆けて自然生態系農業の推進に関する条例を制定し、農業の使命である食の安全を掲げた町づくりを推進してきました。

今後、生産者、農協、行政が一体となり、消費者との信頼のもと、安心できる農畜産物の生産・流通を通じて、都市と農村との交流・共生を一層深めながら、更なる自然生態系農業の発展に努めてまいります。

- ⑥連絡先：綾町有機農業開発センター 藤島裕輔
〒880-1303 宮崎県東諸県郡綾町大字南俣1128番地
TEL 0985-77-0100 FAX 0985-77-0962
E-mail y.fujishima@town.aya.lg.jp

かごしま有機農業推進協議会（鹿児島県）

次世代にバトンタッチ・オーガニックフェスタ

①取り組みの体制

鹿児島市、南さつま市、始良市、始良有機部会、NPO法人鹿児島県有機農業協会、(株)MOA商事、コープかごしま、(有)かごしま有機生産組合の8者により協議会を構成。

一般消費者に対し、有機農業の理解促進のための情報発信、有機農産物の消費拡大を推進。

②取り組みの主な内容

- 販売企画力の強化
オーガニックフェスタの開催、販売促進、商談会等への参加
- 生産技術力の強化
各種研究会・学会等への参加、研究会、研修会等への参加
- 人材育成力の強化
先進地視察や交流会等への参加、新規就農者向け講習会、公開講座等の開催

③生産概要

- 有機農業生産物の内訳（平成22年末）
米 3.1ha（有機JAS又は有機JASと同等の取り組み）
野菜28.4ha（玉ねぎ、にんにく、菜花、らっきょうなど）
果樹 4.7ha（ポンカン、タンカン、クワなど）
- 地域内の有機農業者数（平成22年末）
37戸（有機JAS認証29戸）
- 有機農産物産出額（平成22年）
約1億円
- 農産物の主な取引先
有機農産物会員制宅配団体、鹿児島始め全国各地の生協、直営店舗、スーパー、小売店、学校給食等

④有機農業への理解促進活動（オーガニックフェスタ）



⑤協議会代表の一言

有機農業への新規参入をめざす動きは少しずつ見えてきています。これからの課題は、消費者の理解者、支持者をどのように増やしていくか、ということだと考えます。

地域の大切な生活環境を健全に守り、次世代にバトンタッチしていくためにも有機農業を支えていくことが重要かつ、緊急のテーマであることを更に広く地域の生活者の皆さんに訴えていきたい。

- ⑥連絡先：鹿児島有機農業技術センター 担当：森永
〒899-5412 鹿児島県始良市三拾町1397-14
Tel&Fax 0995-73-3511
Mail k-ofsc@swan.ocn.ne.jp